


取扱説明書 詳細編

DLP[®] プロジェクター

品番 NTN91011
NTN91012

お客様へ

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 器具の取り付けには電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。
- 本器具は、別売の埋込枠（品番：NTN98011W または NTN98011B）を組み合わせで使用します。単独ではご使用いただけません。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に“安全上のご注意”（ 6～8 ページ、27～29 ページ）を必ずお読みください。
- この説明書は必ず保管ください。

工事店様へ

- 施工前に施工説明をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- この説明書はお客様に必ずお渡しください。

もくじ

はじめに.....	3	[動作設定] メニューについて	42
無線機器に関するご注意.....	5	[動作モード].....	42
		[コンテンツ].....	42
		[色温度 (K)].....	42
		[調光率 (%)].....	43
		[スケジュール].....	43
		[システム連動設定].....	44
		[フェード設定].....	46
		[投写設定] メニューについて	47
		[映像縮小].....	47
		[台形補正].....	48
		[ホワイトバランス].....	50
		[コントラスト (%)].....	52
		[上下反転].....	52
		[左右反転].....	52
		[スピーカー設定] メニューについて	53
		[Bluetooth].....	53
		[接続中のデバイス].....	53
		[音量].....	54
		[その他設定] メニューについて	55
		[高地モード].....	55
		[時刻設定].....	55
		[プロジェクター ID].....	55
		[Wi-Fi 設定].....	55
		[メニュー表示位置].....	56
		[プロジェクター情報].....	56
		[データ管理].....	57
		[データ初期化].....	57
		コントローラーとのシステム連動について	58
		信号線式ライコンの場合.....	58
		ライトマネージャー Fx の場合.....	60
		マルチマネージャー Ex の場合.....	63
		点検とお手入れ	66
		お手入れ.....	66
		点検.....	66
		インジケーターについて.....	67
		故障かな?	68
		仕様	69
		保証とアフターサービス	71
		補修用性能部品の保有期間.....	71
		修理のご依頼について.....	71
はじめに	3		
施工説明			
安全上のご注意	6		
設置の前に	9		
設置について.....	9		
付属品の確認.....	9		
別売品.....	10		
ぼかしキャップについて.....	11		
各部の名称とはたらき	13		
器具.....	13		
スタンバイ状態にする.....	14		
投写状態にする.....	14		
施工手順	15		
投写領域寸法について.....	24		
取扱説明			
安全上のご注意	27		
ご使用になる前に	30		
本器具の取り扱いについて.....	30		
廃棄について.....	30		
リモコンの準備	31		
乾電池を入れる、取り出す.....	31		
リモコンでの操作範囲	32		
各部の名称とはたらき	33		
リモコン.....	33		
リモコンで操作する	34		
動作モードを切り換える.....	34		
AV ミュート機能を使う.....	34		
リモコンの ID ナンバーを設定する.....	35		
コンテンツを設定する.....	36		
色温度を設定する.....	37		
調光率を設定する.....	37		
オンスクリーンメニューについて	38		
メニュー画面の操作方法.....	38		
メニュー.....	39		
サブメニュー.....	40		

はじめに

■本書内のイラストについて

- 特に指定のない限り、器具のイラストは、NTN91012（広角タイプ）のものです。別売の埋込枠がついた状態で説明しています。
- 器具、別売の埋込枠との組み合わせ状態、画面などのイラストは、実際とは異なることがあります。

■参照ページについて

- 本書では、参照ページを（👁️ 00 ページ）のように示しています。

■用語について

- 本書では付属品の「ワイヤレスリモコン」を「リモコン」と記載しています。

■無線 LAN 接続用 SSID およびパスワードについて

- 本器具は、無線 LAN 接続（Wi-Fi 接続）が可能です。その際に必要となる SSID およびパスワードは、本書の最終ページのシールおよびオンスクリーンメニューの“[プロジェクター情報]”（👁️ 54 ページ）にて、確認することができます。

なお、シールに記載されているパスワードは、初期パスワードのため、オンスクリーンメニューの [Wi-Fi 設定] にて、パスワードを変更された場合は、対応しなくなりますので、ご注意ください。

現在、本器具は [Wi-Fi 設定] に対応しておりません。開発中のスマートフォンアプリと連携することで対応する予定です。（発売日未定）

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求することがあります。

VCCI-A

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

2.4FH1

2.4 : 2.4GHz帯を使用する無線機器です。

FH : FH-S S変調方式です。

1 : 電波干渉距離は10mです。

————— : 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能です。



本器具には、日本の電波法に基づく技術基準に適合し認証済みの無線モジュールが搭載されています。

■ 本器具の特徴について

- 本器具はダウンライトのように天井におさまる埋込型のプロジェクターです。
- 内蔵された映像と音*のコンテンツで、空間を演出できます。
※音を出す場合は、別途 Bluetooth 対応のスピーカーをご用意ください。接続するスピーカーについては、次の URL を参照してください。

<https://www2.panasonic.biz/ls/lighting/shop/effect-projector/bioshadow/support/operation/>

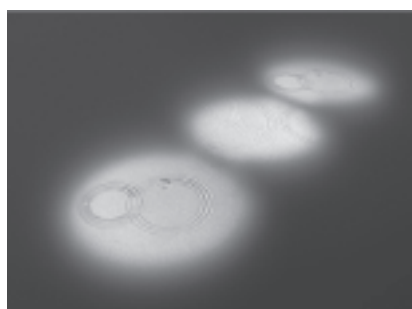


空間に溶け込むダウンライト型

- 天井埋込型で空間に溶け込み、壁面や床面への投写が可能です。



壁面投写時の使用例(3台使用)



床面投写時の使用例(3台使用)

一般照明との併用や、複数台連動による空間演出が可能

- コントローラー（信号線式ライコン、ライトマネージャー Fx、マルチマネージャー Ex）を使用して、調光信号によるコンテンツやシーンの切り替え、照明器具との連動が可能です。投写する映像の色温度は 2700 K ～ 6500 K まで自由に変更することができます。複数台による幅広い空間演出も可能です。

シーンはコンテンツ、色温度、調光率の組み合わせで設定されます。

- コンテンツ：本器具に内蔵されたコンテンツ
- 色温度：2700 K ～ 6500 K
- 調光率：0 ～ 100%

マルチマネージャー Ex とのシステム連動には以下のインターフェースが必要です。

WiLIA/PWM 信号変換インターフェース（品番：NK51115・別売）

PD/ 調光信号変換インターフェース（品番：NK51012・別売）

無線機器に関するご注意

本器具の無線機器接続機能使用時は、2.4 GHz/5 GHz 帯域の電波を使用します。無線局の免許は必要ありませんが、下記の内容を十分理解してご使用ください。

■ほかの無線機器の近くでは使用しないでください

下記の機器は、本器具と同じ帯域の電波を使用している可能性があります。これらの近くで本器具を使用すると、電波の干渉により通信できなくなったり、通信速度が遅くなったりする場合があります。

- 電子レンジなど
- 産業・科学・医療用機器など
- 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局
- 特定小電力無線局

■本器具の近くでは、携帯電話・テレビ・ラジオをできるだけ使用しないでください

携帯電話・テレビ・ラジオなどは、本器具とは違う帯域の電波を使用しておりますので、無線 LAN の通信や、これらの機器の送受信には影響ありません。しかし、本器具からの電波により、音声や映像にノイズが発生することがあります。

■鉄筋・金属・コンクリートなどは、無線 LAN 通信の電波を通しません

木材やガラス（金属メッシュ入りガラスを除く）などの壁や床を通して通信することはできますが、鉄筋・金属・コンクリートなどの壁や床を通して通信することはできません。

■静電気が多く発生するような場所では、できるだけ本器具を使用しないでください

静電気やノイズが多く発生するような場所で本器具を使用する場合、無線機器との通信が切れやすくなります。その場合はリモコンまたは本器具電源部の電源ボタンで電源をいったん切り、問題となる静電気やノイズ源を取り除いたあとに本器具の電源を入れ直してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

パナソニック 照明と住まいの設備・建材お客様ご相談センター：  0120-878-709

■国外でのご使用について

本器具は、お買い求めの国または地域からの持ち出しが禁止されていますので、お買い求めの国または地域でのみ使用してください。また、無線 LAN を使用できるチャンネルや周波数は国や地域により制限があります。

■IEEE802.11a/n (5.2 GHz/5.3 GHz 帯) は、屋内で使用してください

5.2 GHz/5.3 GHz 帯を使って屋外で通信を行うことは、電波法で禁止されています。

5.5 GHz ~ 5.7 GHz の周波数帯域の屋外での使用については電波法で禁止されていません。

施工説明

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

警告

器具取付にあたって

	<p>■ 断熱材、防音材をかぶせた状態で使用しない。 火災の原因となります。 ・住宅の断熱施工天井には、使用できません。</p>	<p>ブローイング施工不可 グラスウール施工不可</p>
	<p>■ 器具の改造および構成部品の交換はしない。 火災・感電・落下の原因となります。</p>	
	<p>■ 水平天井埋込専用です。壁取り付けや天井直付けおよび傾斜天井には取り付けない。 火災・落下の原因となります。</p>	
	<p>■ 荷重に耐えられない天井に設置しない。 落下などによるけがや火災、感電の原因となります。</p>	
	<p>■ 器具と被照射物は 30 cm 以上(近接限度距離) 離し、近接限度距離内に被照射物が近づくおそれがある場所(ドア開閉範囲の上、家具の上、クローゼット・押入れの中等)では使用しない。 過熱による火災の原因となります。</p>	<p>近接限度距離 30cm 以上</p>
	<p>■ 安全管理のため、器具は、ペースメーカー・植込み型除細動器・医療電気機器等から 22 cm 以上離して使用する。 送信電波が影響を与える可能性があります。</p>	
	<p>■ 電源線・調光線を器具に結束させない。 火災・感電の原因となります。</p>	
	<p>■ 調光線は電源線と束ねない。 火災・感電の原因となります。</p>	



警告 (つづき)



- **施工は取扱説明書にしたがい確実に行う。**
施工に不備があると火災・感電・落下の原因となります。
 - **器具の取り付け部以外の外郭が天井内の造営物やダクト、電気配線等の設備に触れないように施工する。**
火災の原因となります。
 - **必ず適合する埋込枠 (NTN98011W または NTN98011B) と組み合わせて使用する。**
落下の原因となります。
 - **器具は、断熱材・防音材・造営材と図のような空間を設けて施工する。**
火災の原因となります。
-
- **断熱施工されていない天井に取り付ける場合、器具は、防音材・造営材などと図のような空間を設けて施工する。**
火災の原因となります。
-
- **製品に表示された定格電圧±6%の電源電圧、周波数で使用する。**
指定外の電源電圧・周波数で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
 - **落下防止ワイヤーを確実に取り付ける。**
不備があると、落下の原因となります。
 - **電源線・調光線は差し込み穴に確実に差し込む。**
不備があると、火災・感電の原因となります。
 - **電源線・調光線は、接続後、引っ張って抜けないことを確認する。**
不備があると、火災・感電の原因となります。
 - **接地工事 (D 種接地工事) を確実に行う。**
不備があると、火災・感電の原因となります。
 - **端子台 (電源側) の送り容量は 20 A 以下にする。**
不備があると、火災・感電の原因となります。
 - **端子台 (調光側) の送り容量は 350 mA 以下にする。**
不備があると、火災・感電の原因となります。



注意

器具取付にあたって

	<p>■ 一般屋内用器具です。直射日光の当たる場所、水気の多い場所、湿気の多い場所、腐食性のガスの発生する場所では使用しない。 火災・感電・サビの原因となります。</p>
	<p>■ 軒下、屋側通路等の雨の吹き込みを受ける場所で使用しない。 火災・感電・落下・サビの原因となります。</p>
	<p>■ 振動のある場所では使用しない。 火災・感電・落下・取付面のスキマおよび変形の原因となります。</p>
	<p>■ ロックウール等のやわらかい天井に取り付けない。 天井材損傷・器具ズレの原因となります。</p>
	<p>■ 周囲温度は、海拔 1500 m 未満で使用する場合は、5℃～35℃、海拔 1500 m 以上～3000 m 未満で使用する場合は、5℃～30℃で使用する。 指定外の温度で使用すると火災の原因となります。</p>
	<p>■ 器具の取り付け・取り外しは手袋などの保護具を使用する。 けがのおそれがあります。</p>

設置の前に

設置について

- 投写レンズを下向きにして器具を置かないでください。

レンズが傷つくおそれがあります。

- 海拔 3000 m 以上の場所に設置しないでください。

部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因となる場合があります。

- 指定のコントローラーを使用してください。

指定外のコントローラーの使用は、誤作動の原因となります。

- 設置前に、灯具部を固定している結束バンドを取り外してください。

輸送時の振動による破損防止の為、灯具部は結束バンドで固定しております。結束バンドが取り付けいた状態では、投写方向を調整できません。

- 振動のある場所で使用しないでください。

配光が変化するおそれがあります。

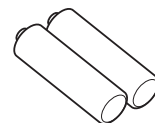
付属品の確認

以下の付属品が入っていることを確認してください。

リモコン <1 個>



単 4 形乾電池 <2 個>

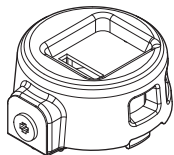


(リモコン用)

ぼかしキャップ <1 個>

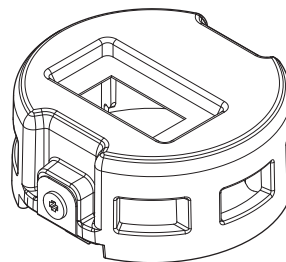
※器具品番 NTN91011 (中角タイプ) と NTN91012 (広角タイプ) によって、ぼかしキャップの形状・大きさが異なります。

ぼかしキャップ (中角タイプ用)



(NTN91011 付属品)

ぼかしキャップ (広角タイプ用)



(NTN91012 付属品)

- 包装材料は、商品を取り出したあと、適切に処理してください。

別売品

別売品（品名）	品番	外装色	用途
埋込枠	NTN98011W	ホワイト	器具を天井に埋込施工する際に必要な専用部品です。
	NTN98011B	ブラック	

お知らせ

- 別売品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

ぼかしキャップについて

ぼかしキャップは、周囲の環境が暗く、映像との境目が目立つ場合に取り付けます。映像周辺部をぼかして境目を目立たないようにします。必要に応じて取り付け / 取り外しを行ってください。

周囲が明るい環境で、ぼかしキャップを使用しますと、メニュー画面が見えにくくなる場合があります。

ぼかしキャップを取り付ける

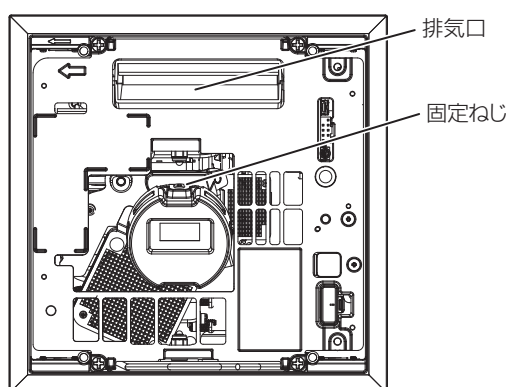
1) 外装カバーを取り外す

- 外装カバーの取り外しかたについては、“施工手順”（[👉 15 ページ](#)）の記載を確認してください。

2) 投写レンズを床方向へ向ける

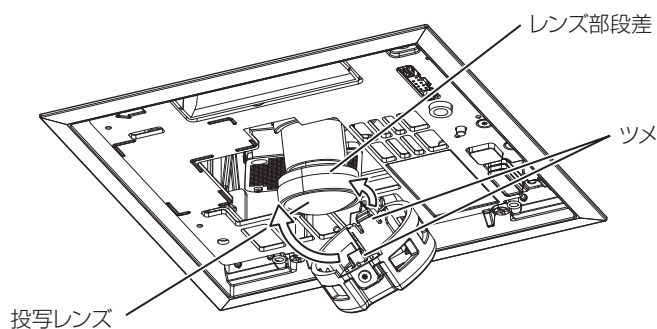
3) 固定ねじを排気口のほうへ向ける

- 取り付け方向を間違いないように、ご注意ください。取り付け方向を間違えますと、映像の映り具合に影響を与える恐れがあります。
- 固定ねじは、締めたり、緩めたりしないでください。



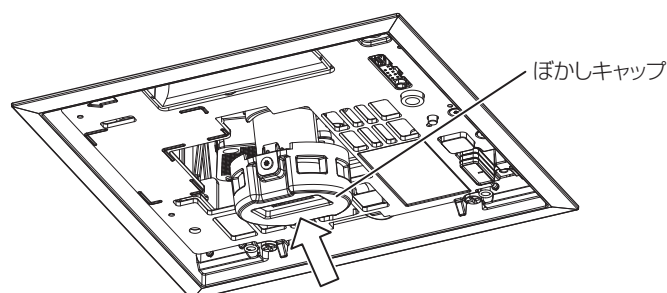
4) ツメを片側ずつ、レンズ部段差へ掛ける

- 投写レンズを傷つけないように、注意してください。



5) ぼかしキャップを投写レンズ側に押し、確実に奥まで押し当てる

- 投写レンズを傷つけないように、注意してください。
- ぼかし具合を調整したい場合は、奥まで押し当てた後、手前に引き戻しつつ投写映像を確認しながら調整してください。



6) 外装カバーを取り付ける

- 外装カバーの取り付けかたについては、“外装カバーを取り付ける”（☞ 23 ページ）の記載を確認してください。

お知らせ

- ぼかしキャップ（広角タイプ用）とぼかしキャップ（中角タイプ用）の形状（ツメの位置等）が異なりますが、取り付け / 取り外し方法は同様になります。
- ぼかしキャップは、説明のために一部構造を省略して図示しています。

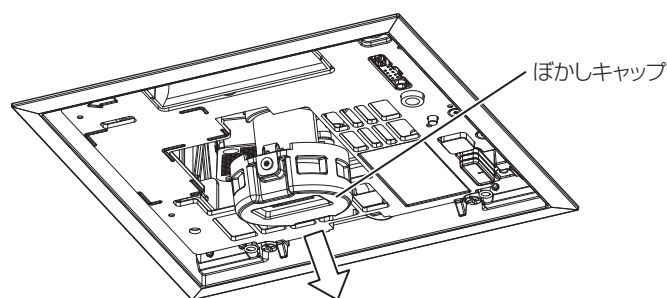
ぼかしキャップを取り外す

1) 外装カバーを取り外す

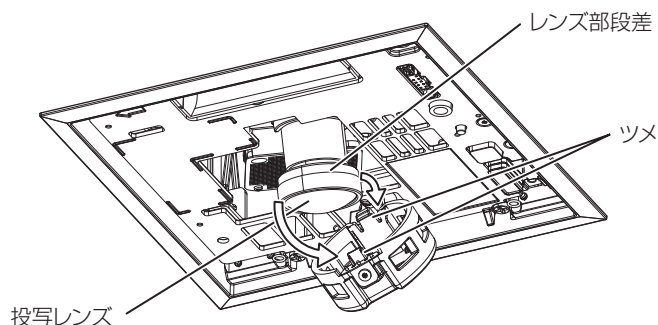
- 外装カバーの取り外しかたについては、“施工手順”（☞ 15 ページ）の記載を確認してください。

2) 投写レンズを床方向へ向ける

3) ぼかしキャップをツメがレンズ部段差にかかるまで引く



4) ツメを片側ずつ外し、ぼかしキャップを取り外す



5) 外装カバーを取り付ける

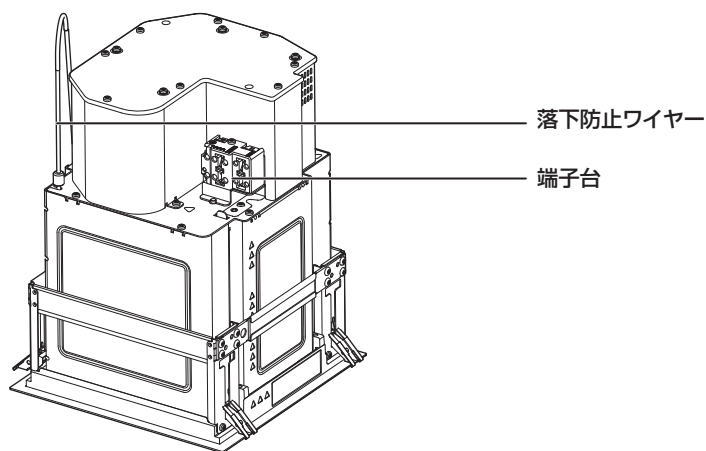
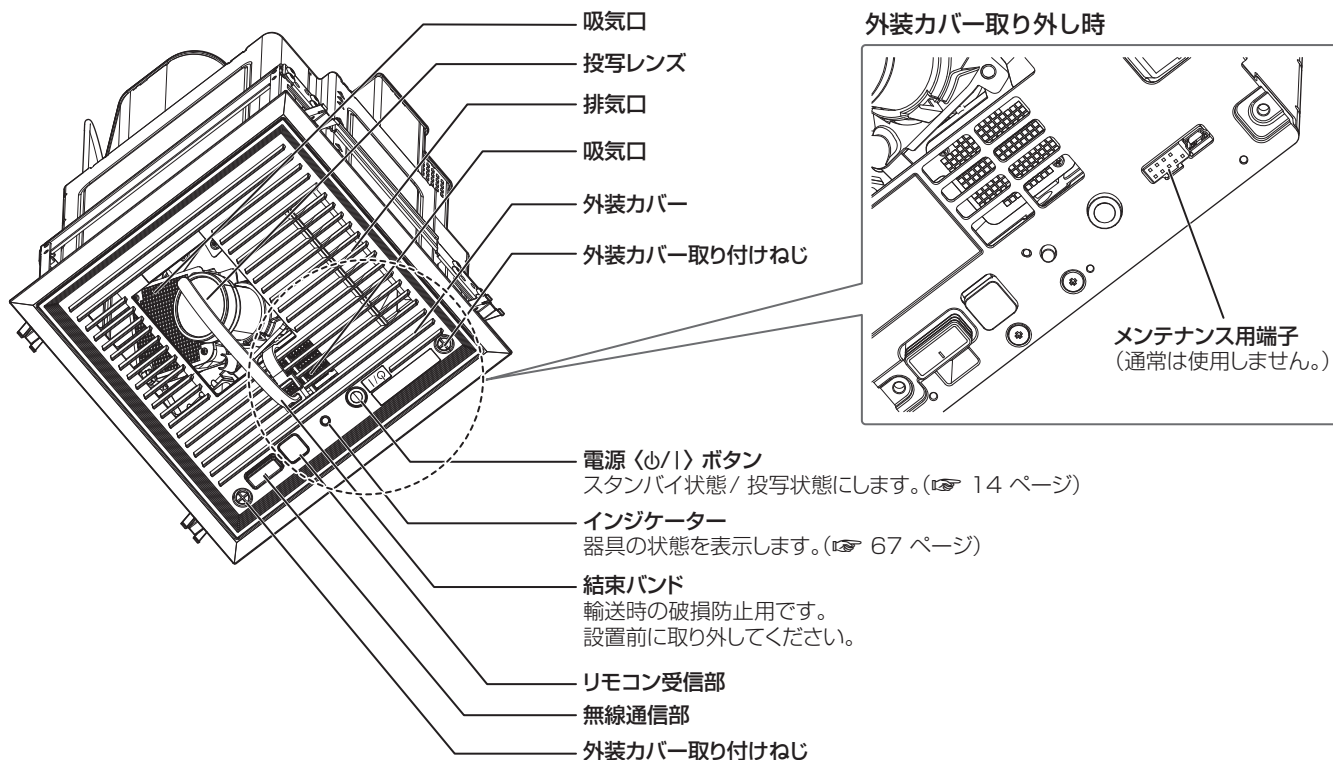
- 外装カバーの取り付けかたについては、“外装カバーを取り付ける”（☞ 23 ページ）の記載を確認してください。

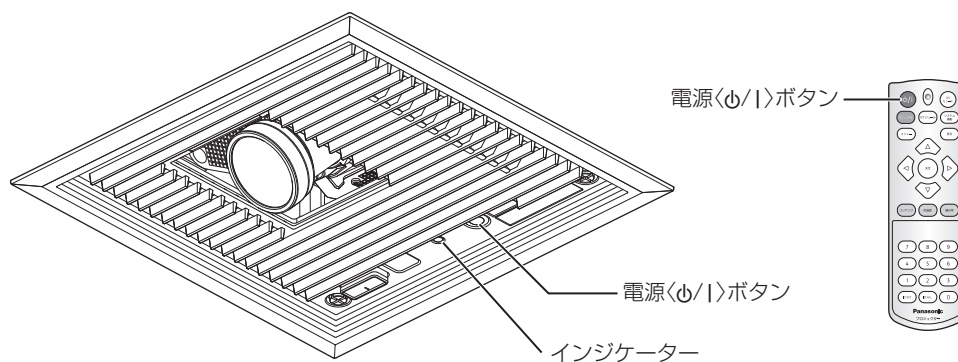
お知らせ

- ぼかしキャップ（広角タイプ用）とぼかしキャップ（中角タイプ用）の形状（ツメの位置等）が異なりますが、取り付け / 取り外し方法は同様になります。
- ぼかしキャップは、説明のために一部構造を省略して図示しています。

各部の名称とはたらき

器具





スタンバイ状態にする

1) 電源 <⏻/⏷> ボタンを押す

- 投写状態（インジケータが青色）の際に、電源 <⏻/⏷> ボタンを押すと映像の投写が終了し、数秒後にインジケータが赤色に点灯します。
- * スタンバイ状態においても、電力は消費されます。“仕様”（[59 ページ](#)）

投写状態にする

1) 電源 <⏻/⏷> ボタンを押す

- スタンバイ状態（インジケータが赤色）の際に、電源 <⏻/⏷> ボタンを押すとインジケータが青色に点滅し、しばらくすると青色に点灯し、映像の投写が開始されます。

お知らせ

- リモコンによる操作は動作モードがマニュアルモードのときのみ有効です。

施工手順

事前に、埋込枠（別売）が天井に取り付けられていることを確認してください。
埋込枠の説明書は別途埋込枠に添付しております。必ずご参照ください。

警告

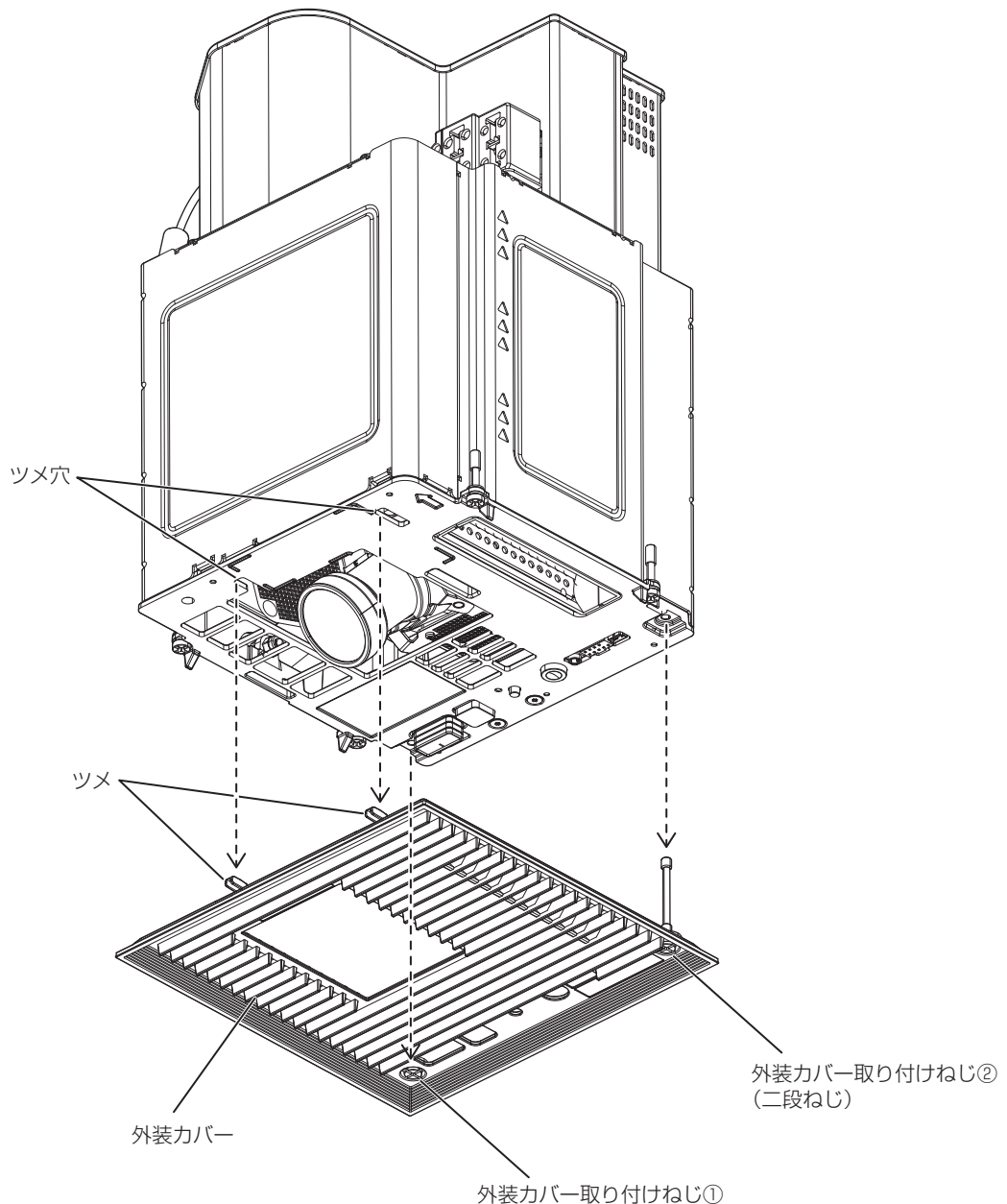
- 施工は、施工説明にしたがい確実にを行う。
施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。

1) 器具を取り付ける前に、以下の内容を確認する


- 器具と埋込枠を合わせた質量（2.8 kg）に耐えられるように、埋込枠がしっかりと固定されていること
- 配線の長さが十分確保されていること
天井から最低 300 mm 引き出せること

2) 外装カバーを取り外す

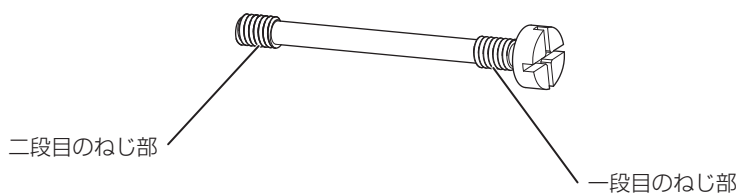
- i) 外装カバー取り付けねじ①と、外装カバー取り付けねじ②（二段ねじ）の一段目のねじ部を取り外す



- ii) 外装カバーのツメ（2か所）を器具のツメ穴（2か所）から取り外す
- iii) 外装カバー取り付けねじ②（二段ねじ）の二段目のねじ部を取り外す
 - 外装カバーが器具から外れます。

 注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 外装カバー取り付けねじを外すと、外装カバーが外れて落下します。人やものに当たらないようご注意ください。 ● 紛失防止のため、外装カバー取り付けねじは、外装カバーから取り外すことはできません。無理に取り外そうとすると壊れる可能性があります。
---	--


■ 二段ねじの構造と外しかた

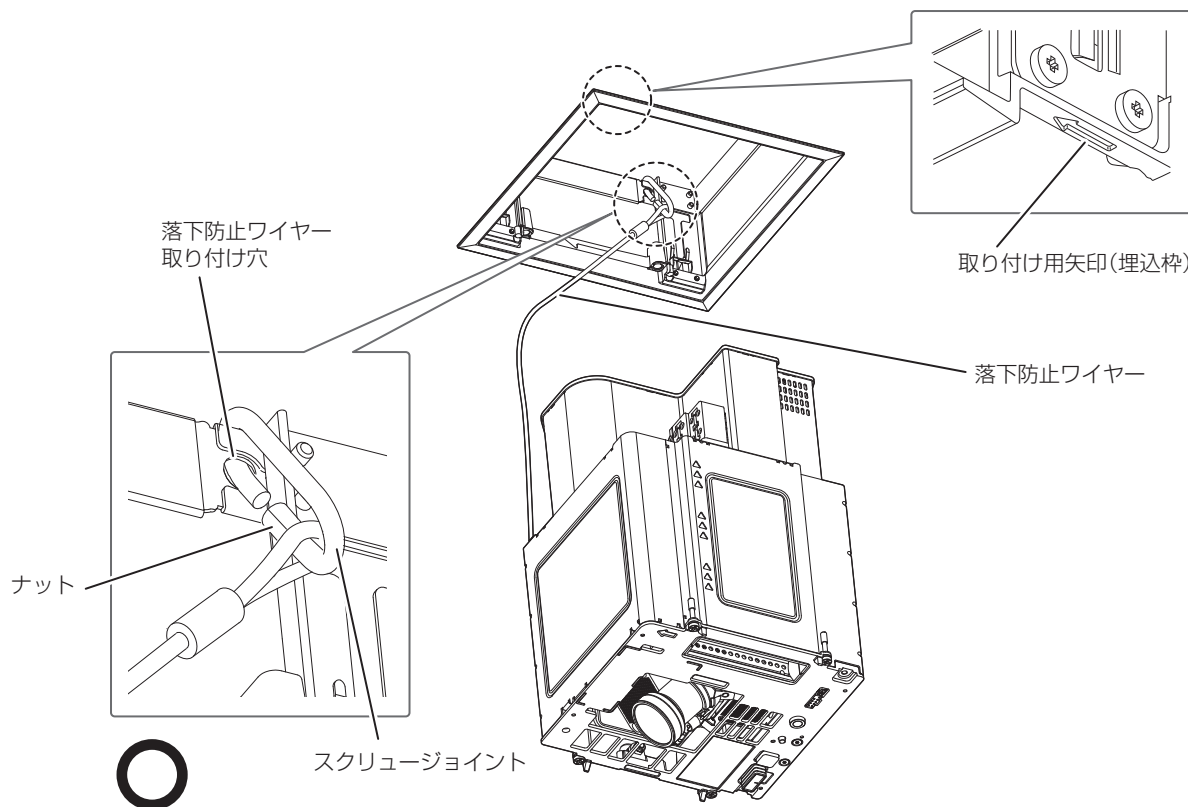


- 一段目のねじ部を反時計回りに回して外し、二段目まで引き抜いてから、再度反時計回りに回して外します。

3) 落下防止ワイヤーを埋込枠に取り付ける

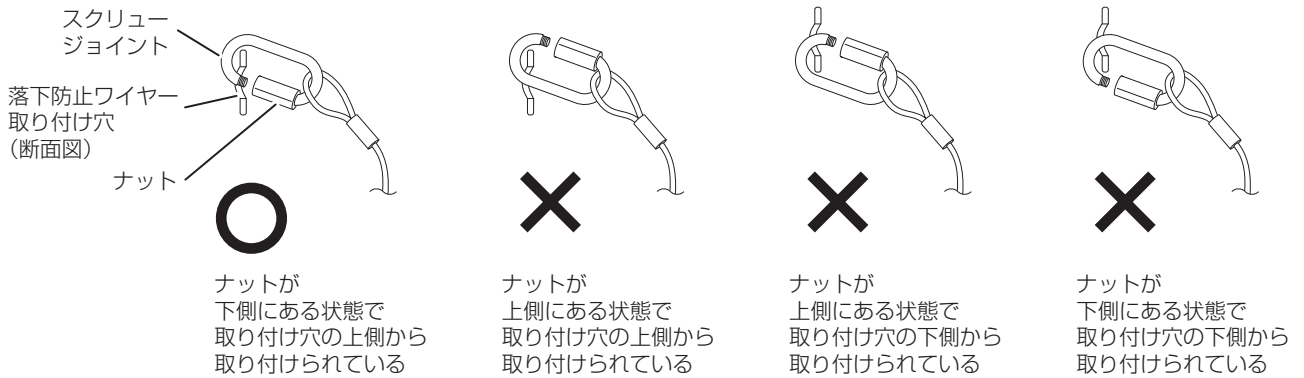
- i) 落下防止ワイヤーの先に取り付けられたスクリージョイントのナットを緩め、埋込枠の落下防止ワイヤー取り付け穴にスクリージョイントをはめる
 - 落下防止ワイヤー取り付け穴は、取り付け用矢印（埋込枠）の反対側にあります。異なる穴に取り付けますと、器具が取り付けられない場合があります。

 警告	落下防止ワイヤーを確実に取り付ける。 不備があると落下の原因となります
---	--



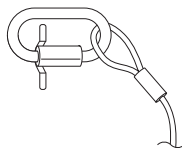
正しい落下防止ワイヤーの取り付け方

- 次にこの正しい取り付け方と正しくない取り付け方（3 ケース）の簡略図を示します。
- スクリージョイントは、ナットが下側にある状態で、取り付け穴の上側から取り付けてください。
不備があると、器具が取り付けられない場合があります。

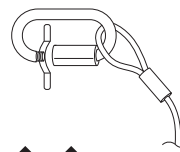


ii) スクリュージョイントのナットを確実に締める

	<p>警告</p>	<p>●不備があると、万一の際、 落下防止ワイヤーが機能しません。</p>
---	------------------	---




スクリージョイントが
落下防止ワイヤー取り付け穴を通り
ナットが締められている

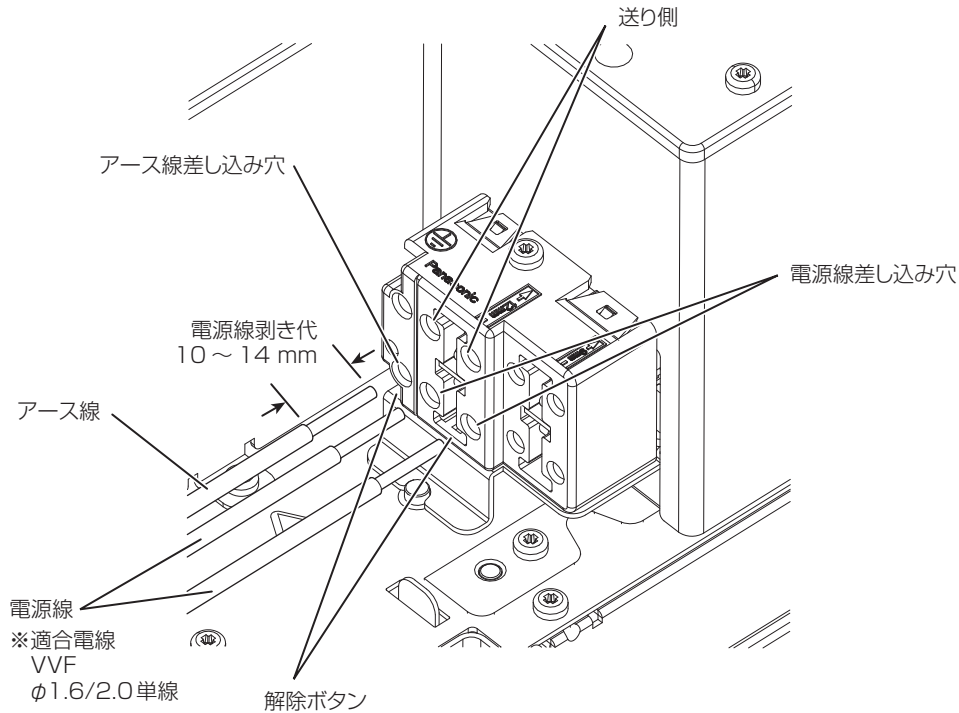


スクリージョイントが
落下防止ワイヤー取り付け穴を通らず
埋込枠の板金をはさみ込んでいる

4) 電源線を端子台の電源線差し込み穴に接続する

 <p>警告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源線は差し込み穴に確実に差し込んでください。 ● 電源線を器具に結束させないでください。 ● 接続後、引っ張って抜けないことを確認してください。 ● 端子台（電源側）の送り容量は 20 A です。 ● 接地工事（D 種接地工事）を確実に行ってください。 不備があると、火災・感電の原因となります。
--	---

- 端子台の L・N 端子に電源線を接続して、アース端子にアース線を接続してください。
- 各線を交差させないでください。

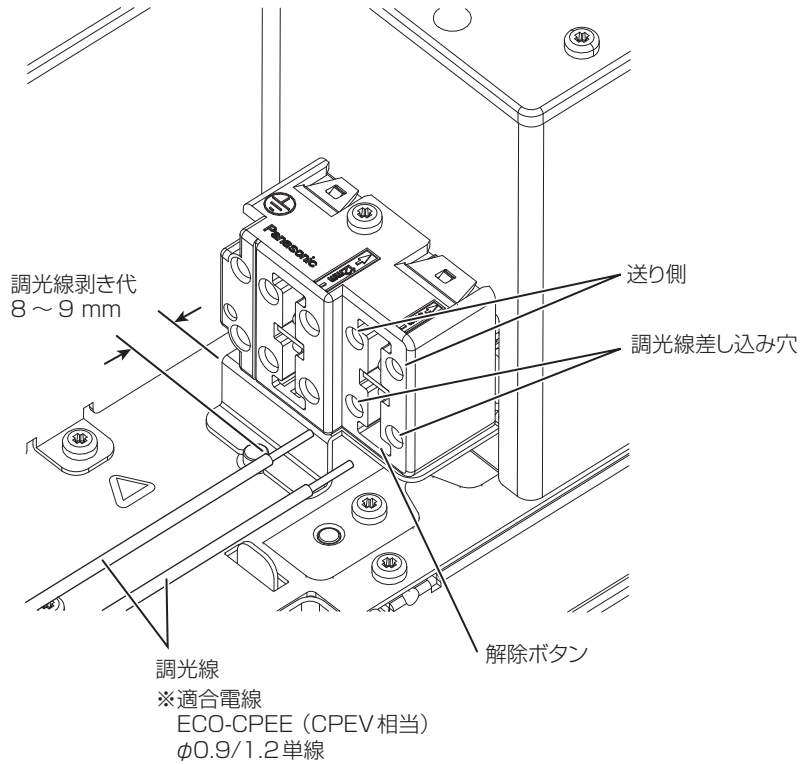


5) コントローラーと連動する場合、調光線を端子台の調光線差し込み穴に接続する



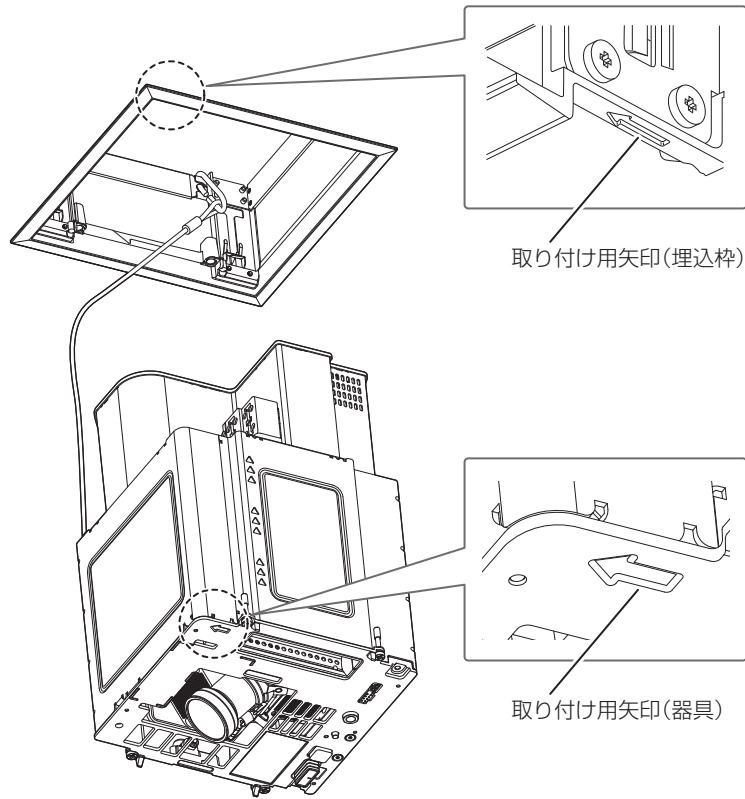
警告

- 調光線は差し込み穴に確実に差し込んでください。
- 調光線を器具に結束させないでください。
- 調光線は電源線と束ねないでください。
- 接続後、引っ張って抜けないことを確認してください。
- 端子台（調光側）の送り容量は 350 mA です。
不備があると、火災・感電の原因となります。

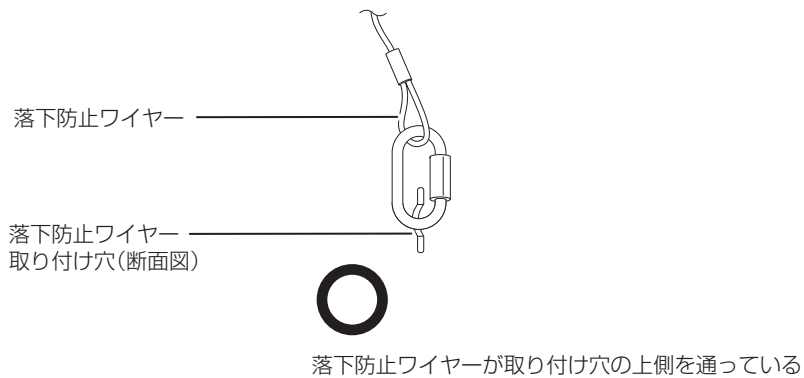


6) 器具を埋込枠に垂直に入れる

- 取り付け用矢印（器具）と取り付け用矢印（埋込枠）の向きを合わせてください。
間違った向きで入れると、故障する原因となります。

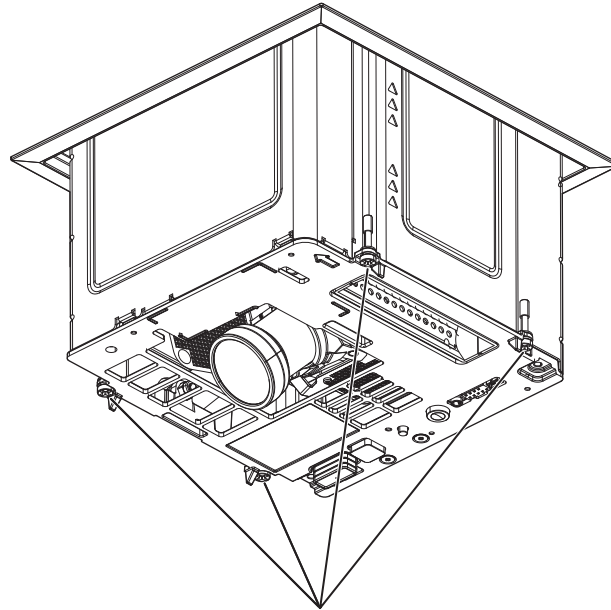


- 落下防止ワイヤーが取り付け穴の上側を通るように、埋込枠に器具をゆっくりと垂直に入れてください。



7) ねじ止めして、器具を埋込枠に取り付ける

- 取り付けねじ（4カ所）を締め付けて器具を固定します。推奨締付トルクは、1.0 N・mです。



取り付けねじ

8) 電源を入れる

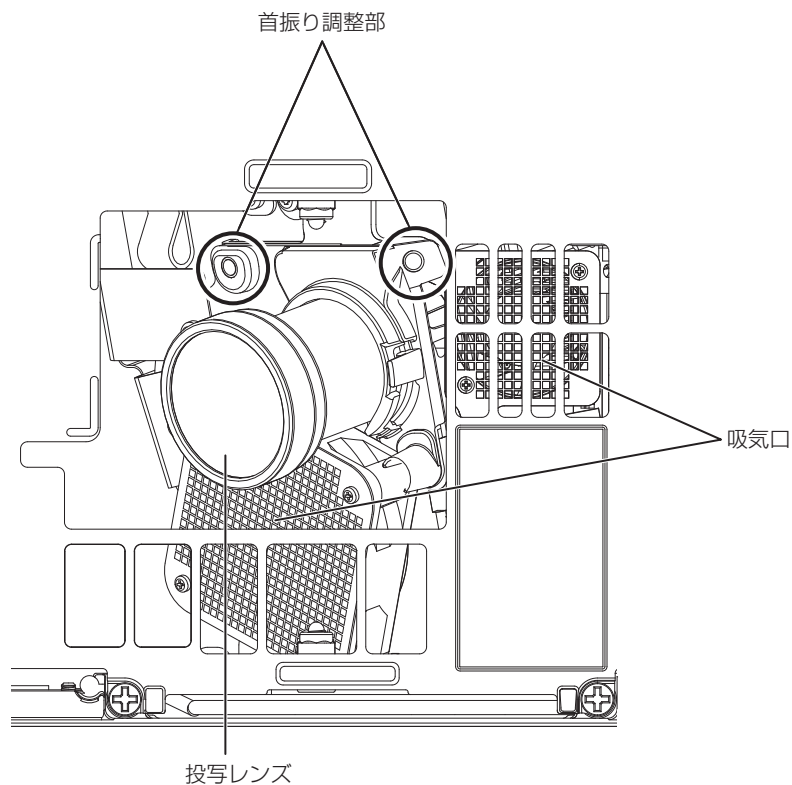
9) 投写位置を調整する

- 首振り角度は、首振り調整部を押して調整してください。
- 角度は約 0°～43°で調整できます。



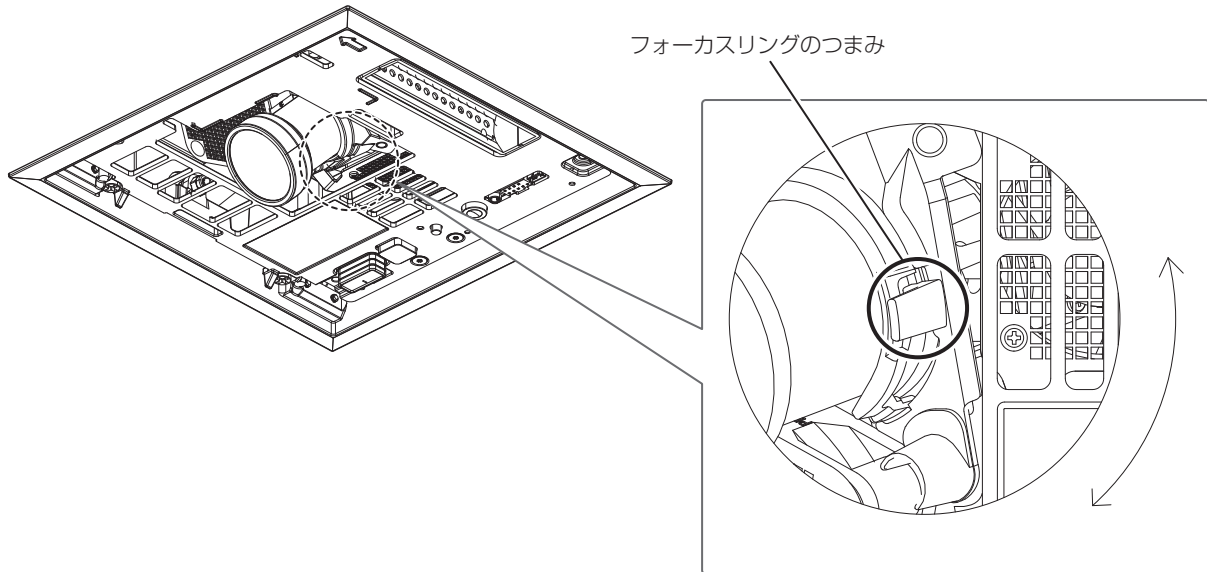
注意

- 首振り調整時、投写レンズ・吸気口を持って操作しないでください。破損の原因となります。

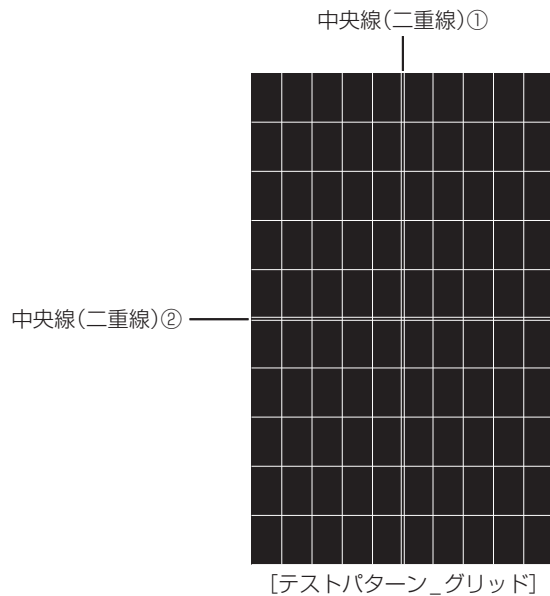


10) 映り具合を調整する

- フォーカスリングのつまみを回して、フォーカスを調整します。フォーカス調整は、映像を投写した状態で10分以上経過したのちに行うことをお勧めします。
- 映り具合の調整は、外装カバーを取り付けた状態でも可能です。



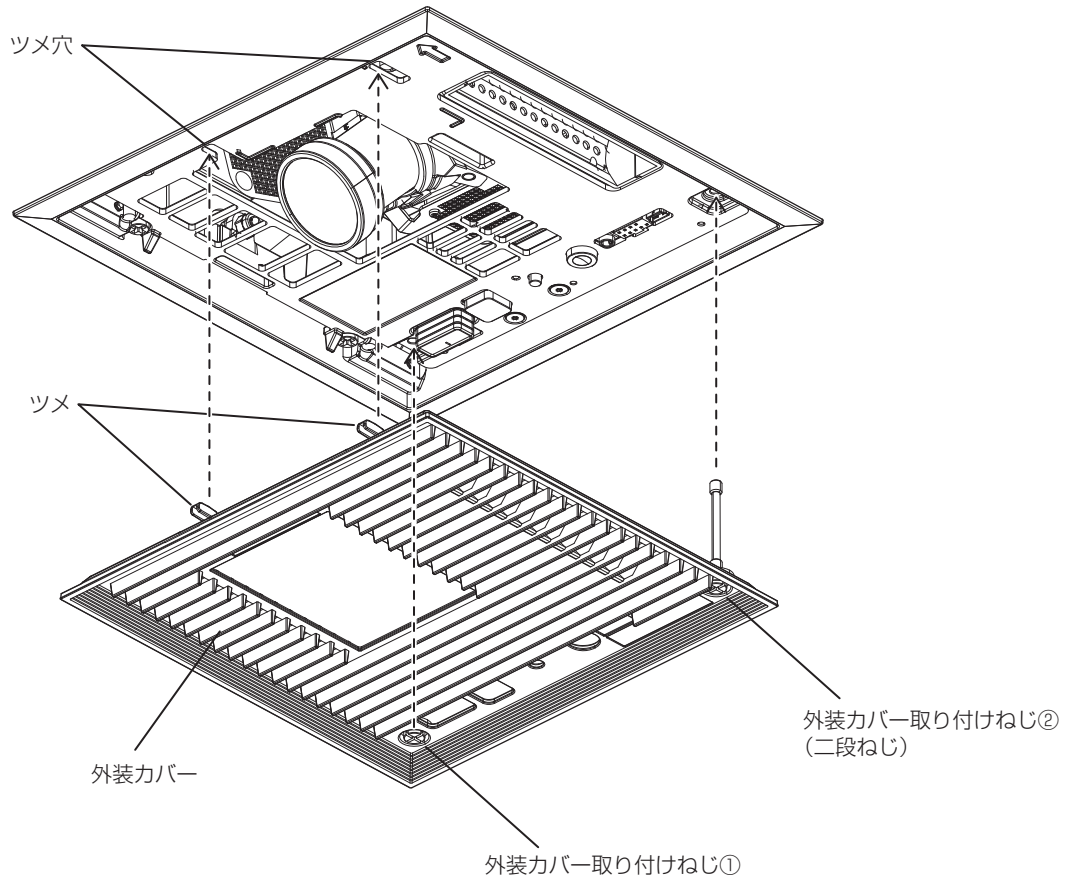
- コンテンツの [テストパターン_グリッド] を投写させ、中央線（二重線）のフォーカスが合うように調整してください。




- 水平に映像を投写させた状態のイラストになります。
器具の特徴上、実際の中央線（二重線）①は、このイラストよりも左側に投写されます。
- [テストパターン_グリッド] のコンテンツは、電源を入れた際に、最初に出力されるコンテンツになります。

11) 外装カバーを取り付ける

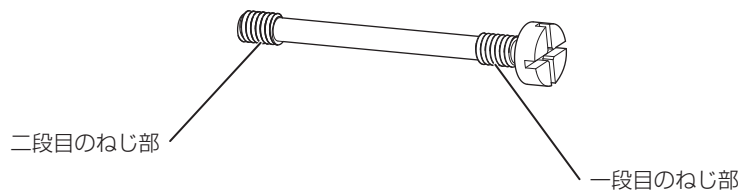
- i) 外装カバー取り付けねじ②（二段ねじ）の二段目のねじ部を、器具に取り付けて奥まで差し込む
- 取り付け前に外装カバーのツメ（2か所）を器具のツメ穴（2か所）の向きを合わせてください。



- ii) 外装カバーのツメ（2か所）を器具のツメ穴（2か所）に差し込む
- iii) 外装カバー取り付けねじ①と、外装カバー取り付けねじ②（二段ねじ）の一段目のねじ部を、取り付ける
- 推奨締付トルクは、0.5 N・mです。

	<h3>注意</h3>	<ul style="list-style-type: none"> • 紛失防止のため、外装カバー取り付けねじは、外装カバーから取り外すことはできません。無理に取り外そうとすると壊れる可能性があります。
---	-------------	---

■ 二段ねじの構造と取り付けかた



- 二段目のねじ部を時計回りに回して、器具の奥まで差し込みます。そのあと、一段目のねじ部を時計回りに回して取り付けます。

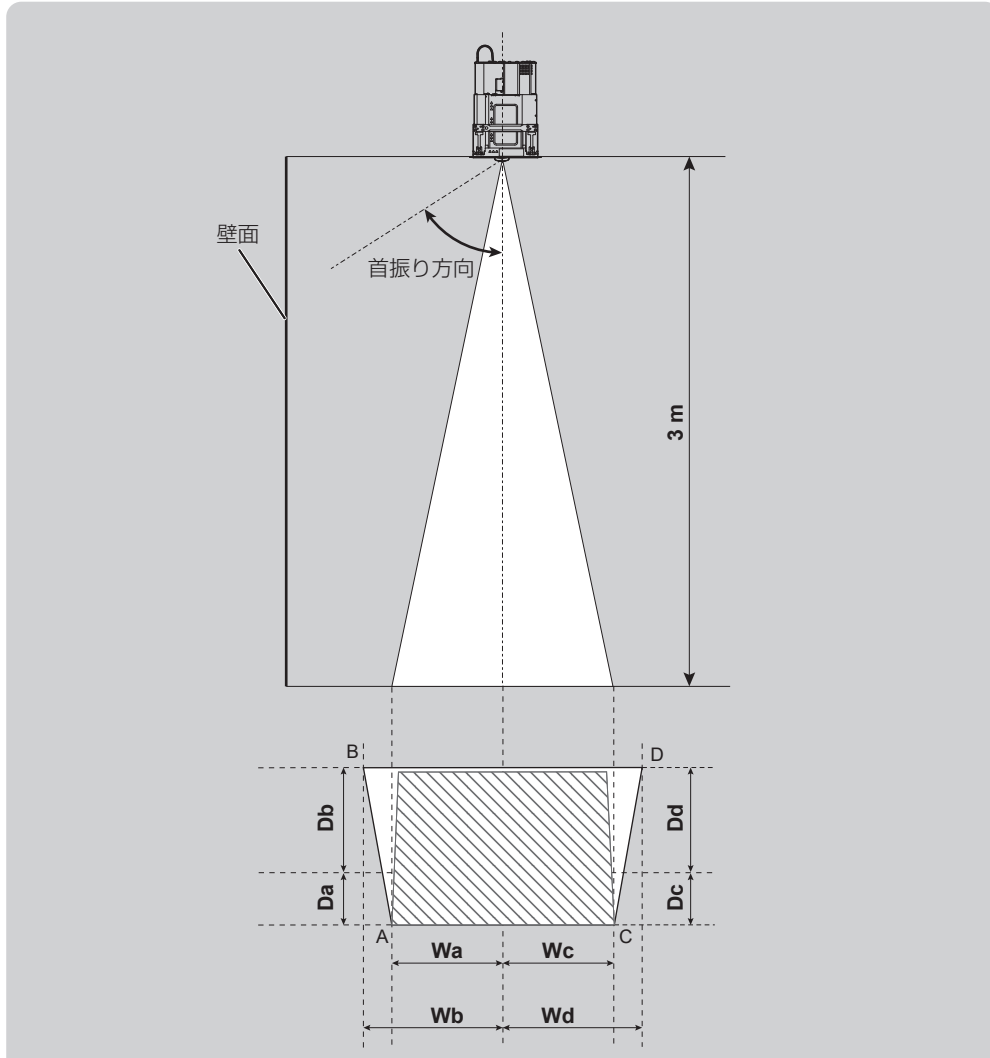
投写領域寸法について

次のイラストや投写領域寸法を参考に、投写形状・首振り方向をご確認ください。

- イラストや投写領域寸法には、若干の誤差があります。

■ 中角タイプの場合

- 床に映像を投写します。次のイラストは投写距離3mのときの投写形状です。



- イラストの斜線部は、[台形補正] 内の [コーナー補正] 設定値が、初期値の場合の投写形状になります。
初期値：[右上]、[垂直方向]、[-44] および [右下]、[垂直方向]、[+44]

■ 投写距離：3.0 m

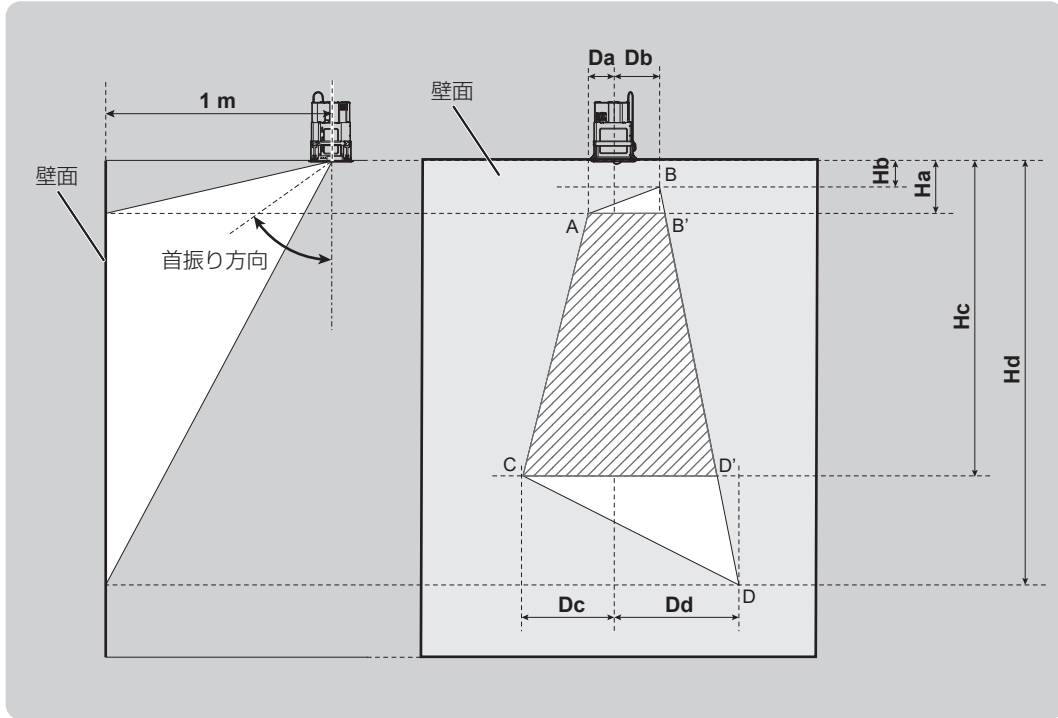
(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Wa	Wb	Wc	Wd
0.57	0.79	0.57	0.79	1.18	1.32	1.16	1.30

- 上記の表は、[台形補正] の設定値がすべて [0] の場合の数値になります。

■ 広角タイプの場合

- 壁に映像を投写します。次のイラストは投写距離 1 m のときの投写形状です。



- イラストの斜線部は、[台形補正] 内の [コーナー補正] 設定値が、初期値の場合の投写形状になります。
初期値：[右上]、[垂直方向]、[-44] および [右下]、[垂直方向]、[+44]

■ 投写距離：1.0 m

(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Ha	Hb	Hc	Hd
0.29	0.24	1.07	1.06	0.35	0.28	3.45	4.60

- 上記の表は、[台形補正] の設定値がすべて [0] の場合の数値になります。

施工手順

前のイラスト以外の投写領域寸法の参考値を次の表に示します。
 次の表に記載の投写領域寸法には、若干の誤差があります。
 [台形補正] の設定値がすべて [0] の場合の数値になります。

<中角タイプの場合>

■ 投写距離：2.7 m

(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Wa	Wb	Wc	Wd
0.51	0.71	0.51	0.71	1.06	1.19	1.04	1.17

■ 投写距離：3.5 m

(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Wa	Wb	Wc	Wd
0.66	0.92	0.66	0.92	1.37	1.54	1.35	1.52

■ 投写距離：4.0 m

(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Wa	Wb	Wc	Wd
0.76	1.05	0.76	1.05	1.56	1.75	1.55	1.73

■ 投写距離：4.5 m

(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Wa	Wb	Wc	Wd
0.86	1.18	0.86	1.18	1.76	1.97	1.74	1.95

<広角タイプの場合>

■ 投写距離：0.6 m

(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Ha	Hb	Hc	Hd
0.16	0.15	0.62	0.63	0.20	0.16	2.03	2.70

■ 投写距離：0.8 m

(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Ha	Hb	Hc	Hd
0.23	0.20	0.84	0.84	0.28	0.22	2.74	3.65

■ 投写距離：1.2 m



(単位：m)

投写領域寸法							
Da	Db	Dc	Dd	Ha	Hb	Hc	Hd
0.36	0.29	1.29	1.27	0.42	0.34	4.16	5.55



取扱説明

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。
 ■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。


 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。





■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

使用についてのご注意

警告

電源について	
<p>異常・故障時には直ちに使用を中止する</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 異常を感じたら速やかに電源を切り、販売店（工事店）に相談する。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ■ 製品に表示された定格電圧±6%の電源電圧、周波数で使用する。指定外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

ご使用について	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用中は投写レンズを絶対にのぞかない。投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因となります。 <div data-bbox="869 1520 1453 1615" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  <p>RG2</p> </div> <p style="text-align: center;">「JIS C 7550:2011 リスクグループ 2」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 布や紙など燃えやすい物で覆ったり、かぶせたりしない。火災の原因となります。 ■ 器具と被照射物は 30 cm 以上（近接限度距離）離し、近接限度距離内に被照射物、可燃物等（ドア開閉範囲の上、家具、布、紙等）を近づけない。過熱による火災の原因となります。
 <p>分解禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 分解や改造をしない。内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因となります。また、本器具の故障や落下の原因となります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店（工事店）にご相談ください。 <div data-bbox="954 1861 1369 1984" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>感電のおそれあり サービスマン以外の方は分解しないでください。 内部には高電圧部分が多くあり、万一さわると危険です。</p> </div> <p style="text-align: right;">「器具に表示した事項」</p>



警告 (つづき)

付属品・消耗品について



■ 乾電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない。
 [液が目に入ったら目をこすらない]
 失明のおそれや、液が身体や衣服に付着した場合、皮膚の炎症やけがの原因となります。
 ・ すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

■ 乾電池は誤った使い方をしない。

- 充電式の乾電池は使用しない。
- 新旧・異種の乾電池は混ぜて使用しない。
- 乾電池をショートさせない。
- 水、コーヒー、ジュースなどの液体をかけない。
- 乾電池を温度の高くなる場所、湿気の多いところ、気圧の低くなる場所に保管しない。
- 乾電池を分解したり潰したりしない。
- 使用後の乾電池は可燃ゴミに混ぜたり、燃やしたりしない。

液漏れ・発熱・破裂・発火の原因となります。

■ リモコンを改造したり、乾電池以外の部品交換をしない。



■ 使い切った乾電池は、すぐにリモコンから取り出す。
 そのまま機器の中に放置すると、乾電池の液漏れや、発熱・破裂の原因となります。

■ 乾電池の+と-は正しく入れる。
 乾電池の破損や液漏れの原因となります。

■ 乾電池は半年から1年を目安に取り替える（液漏れ防止のため）。
 付属の乾電池は、最初に使用するために用意しているもので、半年に満たないうちに消耗する場合があります。

**注意****使用について**

- 器具の下に温度の高くなる物（ストーブ・ガスレンジ等）や湿気を発生させる物を置かない。火災・感電の原因となります。

お手入れについて

- お手入れの際は、必ず電源を切る。感電の原因になることがあります。
 - ・ 電源を切り、本器具への通電を遮断してください。

付属品・消耗品について

- 長期間使用しない場合は、リモコンから乾電池を取り出す。乾電池の液漏れ、発熱、発火、破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因となることがあります。

点検について

- 点検・交換する。
 - ・ 器具には寿命があります。設置して10年（※）経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行しています。点検・交換してください。
 - ※使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯です。
 - ・ 光源は寿命が来ても、暗くなりますが点灯し続けます。点灯できるからといって継続して使用が可能というわけではありません。
 - ・ 周囲温度が高い場合や点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
 - ・ 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
 - ・ 3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
 - 点検せずに長期間使い続けると、まれに火災・感電・落下などに至る場合があります。

破棄について

- 廃却時は、内部のヒートパイプ（LED放熱用銅管）の一部を切りかく。切り欠かないと、焼却処理時、内圧が上がり破裂の原因となります。

ご使用になる前に

本器具の取り扱いについて

■美しい映像をご覧いただくために

- 本機のレンズは、光源からの光による熱の影響で、電源を入れた直後はフォーカスが安定しません。映像を投写した状態で10分以上経過すると、フォーカスが安定します。

■投写レンズ面は素手でさわらないでください

投写レンズ面に指紋や汚れが付着すると、それらが拡大されて被投写面に映る場合があります。

■DLPチップについて

- DLPチップは、投写レンズの後方に配置され、光源からの光を変調して映像を形成する素子です。DLPチップは、まれに画素の欠けや、常時点灯する画素が発生する場合があります。これらの現象は故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 高出力のレーザー光が投写レンズ面に入ると、DLPチップの故障の原因となりますので注意してください。

■光源について

本器具の光源には、LEDを使用しており、下記のような特性があります。

- 使用時間にとまなない、光源の輝度が低下します。
光源の輝度が半減するまでの使用時間は、約20000時間です。20000時間は目安であり、個体や使用条件などによって、ばらつきがあります。
- LEDには光のバラツキがある為、同一品番でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。

■高地モードについて

海拔1500 m未満でご使用の際は、[高地モード]を[オフ]、海拔1500 m以上～3000 m未満でご使用の際は、[高地モード]を[オン]に設定してください。

部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因となる場合があります。

工場出荷時は、[高地モード]が[オフ]になっています。

廃棄について

製品を廃棄する際は、メニュー画面のメニュー項目から[その他設定]を選択し、表示されたサブメニュー画面のサブメニュー項目から[データ初期化]を実施していただき、最寄りの市町村窓口または販売店（工事店）に、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

リモコンの準備

乾電池を入れる、取り出す

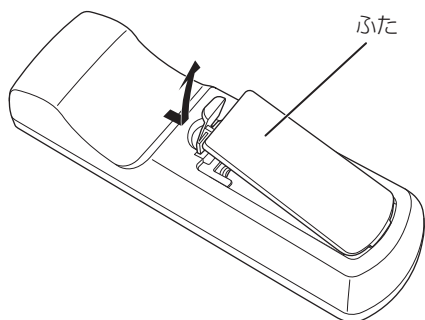


図1

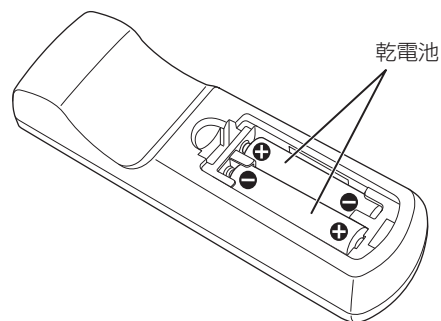
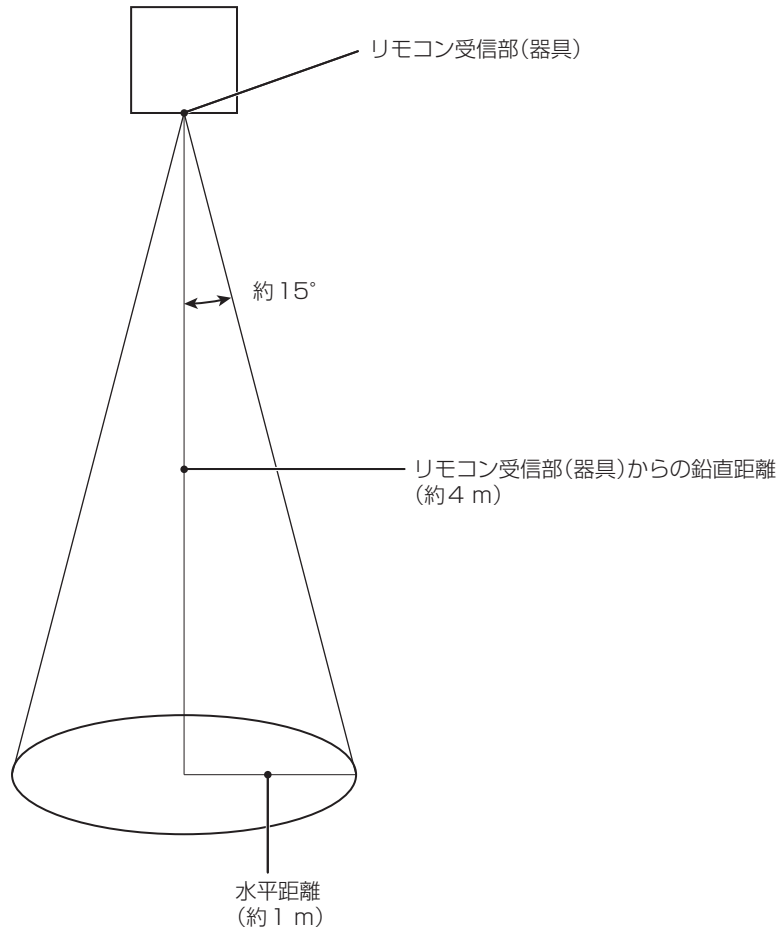


図2

- 1) ふたを開ける (図1)
- 2) 乾電池を入れ、ふたを閉じる (●側から先に入れます) (図2)
 - 乾電池を取り出す場合は、逆の手順で行います。

リモコンでの操作範囲

本器具のリモコン信号受信可能範囲を次に示します。
この範囲内でリモコンを操作してください。



お知らせ

- 上記イラストは、正確な縮尺ではありません。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると、正しく動作しない場合があります。
- リモコン発信部が投写レンズに近すぎる場合や、太陽光などの赤外線を多く含む光がリモコン受信部に直接入射する場合、または周囲温度が低い場合は、動作しにくいことがあります。
- 器具を密集して取り付けると、複数の器具が同時に操作・設定されることがあります。
その場合は、器具の真下でリモコンと器具を近づけて、操作・設定を行ってください。

各部の名称とはたらき

リモコン

リモコン発信部

電源 (ON/OFF) ボタン

スタンバイ状態 / 投写状態にします。(☞ 14 ページ)

〈マニュアル〉ボタン

動作モードをマニュアルモードに切り換えます。
(☞ 34 ページ)

〈メニュー〉ボタン

メニュー画面を表示します。

▲▼◀▶ ボタン / 〈決定〉ボタン / 〈戻る〉ボタン

メニュー画面およびサブメニュー画面の操作に使用します。
また、時刻の入力にも使用します。

〈コンテンツ〉ボタン

マニュアルモードで動作している場合のみ操作できます。
出力するコンテンツの選択に使用します。
(☞ 36 ページ)

数字 (〈0〉～〈9〉) ボタン

リモコンのID ナンバーを設定するときに使用します。

〈ID SET〉ボタン

本器具を複数台使用する環境で、リモコンのID ナンバーを設定する場合に使用します(☞ 35 ページ)

リモコン操作表示ランプ

リモコンのボタンを押すと点滅します。

〈AV ミュート〉ボタン

映像と音声を一時的に消したい場合に使用します。
Bluetooth 接続中の機器の音声をミュートします。
(☞ 34 ページ)

〈システム連動〉ボタン

動作モードをシステム連動モードに切り換えます。
(☞ 34 ページ)

〈スケジュール〉ボタン

動作モードをスケジュールモードに切り換えます。
(☞ 34 ページ)

〈調光率〉ボタン

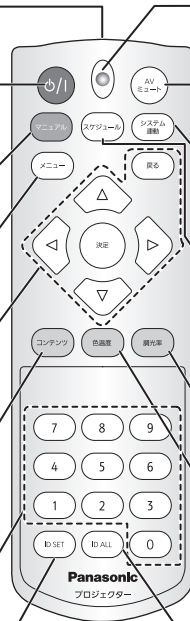
マニュアルモードで動作している場合のみ操作できます。
投写する映像の調光率の調整をします。
(☞ 37 ページ)

〈色温度〉ボタン

マニュアルモードで動作している場合のみ操作できます。
投写する映像の色温度の調整をします。
(☞ 37 ページ)

〈ID ALL〉ボタン

本器具を複数台使用する環境で、1 つのリモコンで同時制御する場合に使用します。(☞ 35 ページ)



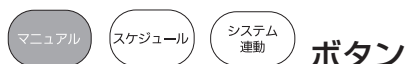
お知らせ

- リモコンで操作できる範囲については、「リモコンでの操作範囲」(☞ 32 ページ)をご覧ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると、正しく動作しない場合があります。
- 本器具のリモコン受信部に蛍光灯などの強い光が当たっていると、操作できなくなる場合があります。できるだけ光源から離して設置してください。
- 第三者により操作される恐れがあるため、リモコンを放置しないでください。

リモコンで操作する

動作モードを切り換える

動作モードを、[マニュアル] / [スケジュール] / [システム連動] に切り換えることができます。



1) 〈マニュアル〉 / 〈スケジュール〉 / 〈システム連動〉 ボタンを押す

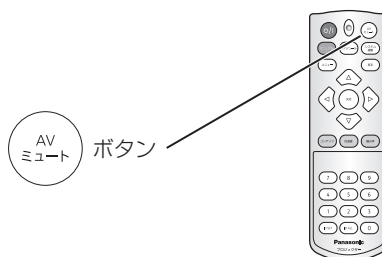
〈マニュアル〉	動作モードがマニュアルモードに設定されます。手動で設定した条件で運転するモードです。
〈スケジュール〉	動作モードがスケジュールモードに設定されます。あらかじめ設定したスケジュールで運転するモードです。
〈システム連動〉	動作モードがシステム連動モードに設定されます。コントローラーと連動して運転するモードです。

お知らせ

- 動作モードを切り換える場合、切り換えが完了するまでに数十秒かかることがあります。

AV ミュート機能を使う

休憩時間や準備中など一定時間だけ本器具を使用しない場合に、映像の投写と音声出力を一時的に止めることができます。



1) 〈AV ミュート〉 ボタンを押す

- 映像の投写と音声出力が止まります。

2) 再度 〈AV ミュート〉 ボタンを押す

- 映像の投写と音声出力を再開します。

お知らせ

- 本器具はスピーカーを内蔵していません。音声は、Bluetooth で接続した外部のスピーカーから出力できます。
- AV ミュートの状態が 24 時間を経過した場合、本器具は自動的にスタンバイ状態に遷移します。

リモコンの ID ナンバーを設定する

本器具を複数台並べて使用する場合、それぞれの器具に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで個別制御ができます。

ID ナンバーを設定して使用する場合は、まず器具の ID ナンバーを設定し、次にリモコンの ID ナンバーを設定します。

工場出荷時、器具の ID ナンバーは [1]、リモコンの ID ナンバーは [ALL] に設定されています。器具の ID がわからない場合はリモコンの ID ナンバーを [ALL] にして制御してください。



1) リモコンの〈ID SET〉ボタンを押しながら、器具側で設定した [01] ~ [31] の ID ナンバーを、数字 (〈0〉 ~ 〈9〉) ボタンを押して設定する

- 正しく設定された場合、リモコン操作表示ランプが 3 回点滅します。
- 〈ID SET〉ボタンと〈ID ALL〉ボタンを同時に 5 秒間押し続けると、ID ナンバーを [ALL] に設定できます。
- ID ナンバーの設定が [ALL] の場合は、器具の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。

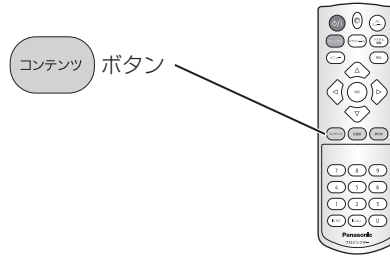
お知らせ

- リモコンの ID ナンバー設定は、器具がなくても可能なため、リモコンの〈ID SET〉ボタンは不用意に押さないでください。〈ID SET〉ボタンを押した場合は、5 秒以内に数字 (〈0〉 ~ 〈9〉) ボタンを押さなければ〈ID SET〉ボタンを押す以前の ID ナンバーに戻ります。
- リモコンに入力された ID ナンバーの指定は、再度指定しない限り記憶しています。ただし、リモコンの乾電池が消耗したまま放置しておくと消去されます。
- 乾電池を交換した場合は、ID ナンバーを再度設定してください。
- 本器具の ID ナンバーは、メニュー画面の [その他設定] メニュー項目を選択し、表示されたサブメニュー画面の [プロジェクター ID] サブメニュー項目 (☞ 55 ページ) で設定してください。

コンテンツを設定する

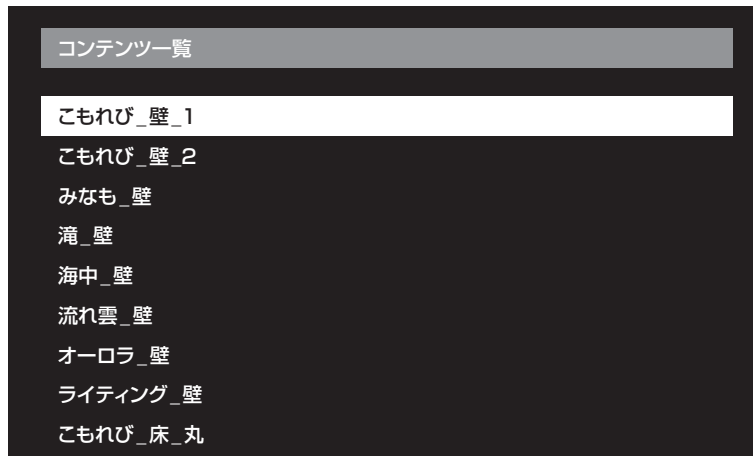
出力するコンテンツを変更できます。

- 動作モードがマニュアルモードのときのみ有効です。



1) リモコンの〈コンテンツ〉ボタンを押す

- [コンテンツ一覧] 画面が表示されます。



2) ▲▼ ボタンでコンテンツを切り換える

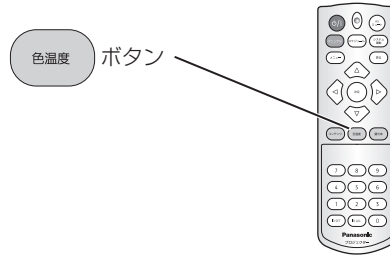
- ボタンを押すごとに、コンテンツが切り換わります。

3) 〈決定〉ボタンを押す

色温度を設定する

色温度を調整します。

- 動作モードがマニュアルモードのときのみ有効です。



1) リモコンの〈色温度〉ボタンを押す

- 下記画面は、約5秒操作しないと自動的に消えます。

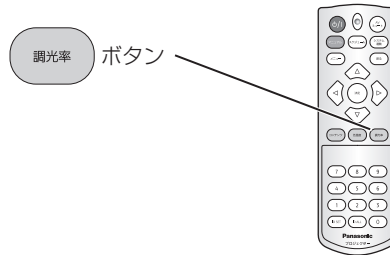


2) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調光率を設定する

明るさを調整します。

- 動作モードがマニュアルモードのときのみ有効です。



1) リモコンの〈調光率〉ボタンを押す

- 下記画面は、約5秒操作しないと自動的に消えます。



2) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

オンスクリーンメニューについて

本器具の各種設定や調整は、オンスクリーンメニュー（メニュー画面）を使用します。

メニュー画面の操作方法

操作の手順



ボタン

1) リモコンの〈メニュー〉ボタンを押す

- [メニュー] 画面が表示されます。



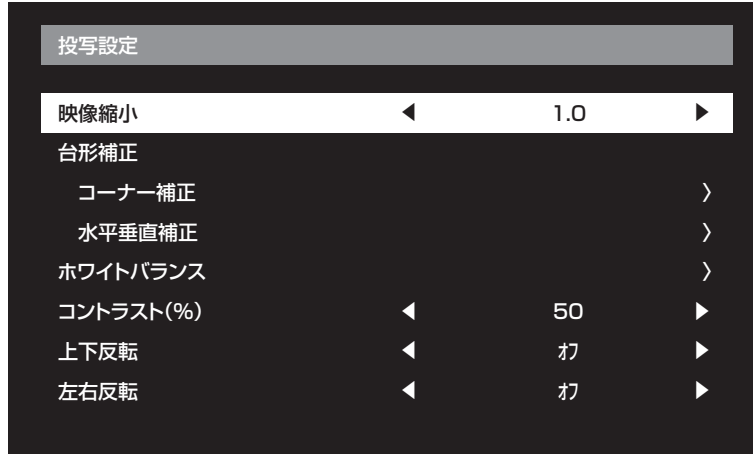
2) リモコンの▲▼ボタンを押してメニュー項目を選択する

- 選択しているメニュー項目はカーソルで表示されます。



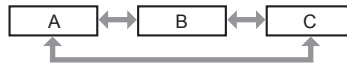
3) リモコンの〈決定〉ボタンを押す

- 選択したメニュー項目のサブメニュー画面が表示されます。



4) リモコンの▲▼ボタンを押してサブメニュー項目を選択し、◀▶ボタンまたは〈決定〉ボタンを押して設定の切り換えや調整を行う

- サブメニュー項目によっては ◀▶ ボタンを押すごとに、下図のように順繰りに設定内容が切り換わります。



お知らせ

- メニュー画面を表示中にリモコンの〈戻る〉ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。
- サブメニュー画面を表示中に、リモコンの〈戻る〉ボタンを押すと、1つ上の階層のメニュー画面に戻ります。
- メニュー画面およびサブメニュー画面を表示中にリモコンの〈メニュー〉ボタンを押すと、メニュー画面またはサブメニュー画面が消えます。
- 選択している動作モードによっては、調整できないサブメニュー項目や使用できない機能があります。調整または使用できない状態のときは、サブメニュー画面のサブメニュー項目が灰色文字で表示され、選択できません。
- メニュー画面のメニュー項目およびサブメニュー画面のサブメニュー項目については“メニュー” (☞ 39 ページ) や “サブメニュー” (☞ 40 ページ) をご覧ください。

メニュー

メニュー画面には次の4つのメニュー項目があります。メニュー項目を選択すると、各メニュー項目のサブメニュー画面に移ります。

メニュー項目	ページ
[動作設定]	42
[投写設定]	47
[スピーカー設定]	53
[その他設定]	55

サブメニュー

選択したメニュー項目のサブメニュー項目が表示され、各サブメニュー項目の設定・調整ができます。動作モードによって表示されるサブメニュー項目が異なります。

[動作設定]

サブメニュー項目		工場出荷時	ページ
[動作モード]		[マニュアル]	42
[コンテンツ]		—	42
[色温度 (K)]		[6500]	42
[調光率 (%)]		[100]	43
[スケジュール]		—	43
[システム連動設定]		—	44
[フェード設定]	[フェード]	[オフ]	46
	[フェードタイプ]	[暗転]	

[投写設定]

サブメニュー項目		工場出荷時	ページ	
[映像縮小]		[1.0]	47	
[台形補正]	[コーナー補正]	[左上] [垂直方向]	[0]	48
		[左上] [水平方向]	[0]	
		[右上] [垂直方向]	[-44]	
		[右上] [水平方向]	[0]	
		[左下] [垂直方向]	[0]	
		[左下] [水平方向]	[0]	
	[水平垂直補正]	[垂直方向]	[0]	49
		[水平方向]	[0]	
[ホワイトバランス]	[ピクチャーモード]		[ノーマル]	50
	[ゲイン]	[赤]	[0]	50
		[青]	[0]	
		[緑]	[0]	
	[オフセット]	[赤]	[0]	51
		[青]	[0]	
[緑]		[0]		
[コントラスト (%)]		[50]	52	
[上下反転]		[オフ]	52	
[左右反転]		[オフ]	52	

[スピーカー設定]

サブメニュー項目		工場出荷時	ページ
[Bluetooth]		[オフ]	53
[接続中のデバイス]		—	53
[音量]		[5]	54

【その他設定】

サブメニュー項目		工場出荷時	ページ
[高地モード]		[オフ]	55
[時刻設定]		—	55
[プロジェクターID]		[1]	55
[Wi-Fi 設定]	[Wi-Fi]	[オフ]	55
	[Wi-Fi パスワード変更]	—	55
[メニュー表示位置]		[中]	56
[プロジェクター情報]		—	56
[データ管理]		—	57
[データ初期化]		—	57

お知らせ

- [Wi-Fi 設定] の工場出荷時の設定は予告なく変更する可能性があります。

【動作設定】メニューについて

メニュー画面で、メニュー項目から【動作設定】を選択し、表示されたサブメニュー画面からサブメニュー項目を選択してください。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 38 ページ）をご覧ください。

- サブメニュー項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

【動作モード】

動作モードを選択します。

- 1) ▲▼ ボタンで【動作モード】を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

【マニュアル】	手動で設定した条件で運転するモードです。
【スケジュール】	あらかじめ設定したスケジュールで運転するモードです。
【システム連動】	コントローラーと連動して運転するモードです。

【コンテンツ】

表示するコンテンツを選択します。

- 動作モードがマニュアルモードのときのみ有効です。
- 動作モードがマニュアルモード以外の場合は現在出力しているコンテンツの名称を表示します。

- 1) ▲▼ ボタンで【コンテンツ】を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - 【コンテンツ一覧】 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで表示したいコンテンツを選択する
- 4) 〈決定〉 ボタンを押す

【色温度 (K)】

色温度を調整します。

- 動作モードがマニュアルモードのときのみ有効です。
- 動作モードがマニュアルモード以外の場合は現在投写している映像の色温度 (K) を表示します。

- 1) ▲▼ ボタンで【色温度 (K)】を選択する
- 2) ◀▶ ボタンでレベルを調整する
 - 100 K 単位で設定できます。

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色温度が上がります。	2700 K ~ 6500 K
◀ ボタンを押す	色温度が下がります。	

[調光率 (%)]

明るさを調整します。

- 動作モードがマニュアルモードのときのみ有効です。
- 動作モードがマニュアルモード以外の場合は現在投写している映像の調光率 (%) を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [調光率 (%)] を選択する

2) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

- 1 %単位で設定できます。

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	明るくなります。	0 ~ 100 %
◀ ボタンを押す	暗くなります。	

[スケジュール]

運用するスケジュールを選択します。

- 動作モードがスケジュールモードのときのみ有効です。
- 動作モードがスケジュールモード以外の場合は本サブメニュー項目は非表示となります。

お知らせ

- 現在、本器具は [スケジュール] に対応しておりません。開発中のスマートフォンアプリと連携することで対応する予定です。(発売日未定)

[システム連動設定]

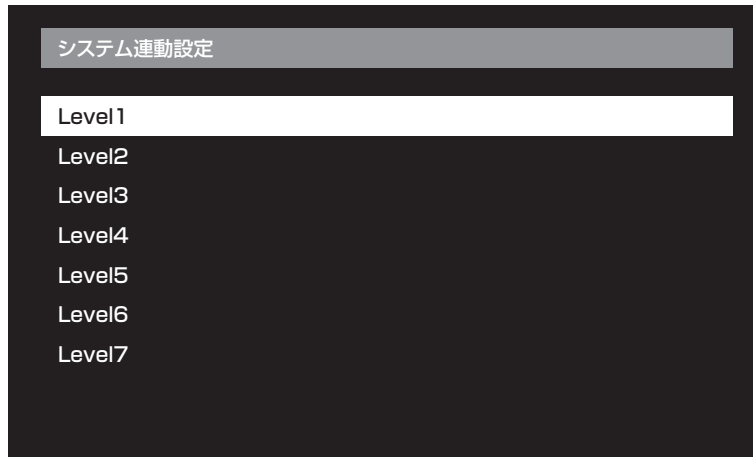
コントローラーと連動するときの動作の内容を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [システム連動設定] を選択する



2) 〈決定〉 ボタンを押す

- [システム連動設定] 画面が表示されます。



3) ▲▼ ボタンで使用する Level を選択する

- [Level1] ~ [Level7] から選択します。
- [Level 設定] 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで設定するサブメニュー項目を選択する

[運用方法]	[シーン] / [スケジュール] から選択します。
[コンテンツ]	コンテンツを設定します。 コンテンツを設定するための操作方法については、“[コンテンツ]” (👁️ 42 ページ) をご覧ください。
[色温度 (K)]	色温度を設定します。 色温度を設定するための操作方法については、“[色温度 (K)]” (👁️ 42 ページ) をご覧ください。
[調光率 (%)]	調光率を設定します。 調光率を設定するための操作方法については、“[調光率 (%)]” (👁️ 43 ページ) をご覧ください。
[スケジュール]	スケジュールを設定します。 スケジュールを設定するための操作方法については、“[スケジュール]” (👁️ 43 ページ) をご覧ください。

- [運用方法] で、[シーン] を選択しているときのみ、[コンテンツ]、[色温度 (K)]、[調光率 (%)] の設定が可能です。

※Level1 工場出荷値



- 各 Level の [コンテンツ]、[色温度 (K)]、[調光率 (%)] の工場出荷値は次のとおりです。

Level	コンテンツ	色温度 (K)	調光率 (%)
Level1	スタンダード	6500	100
Level2	みなも_壁	6500	100
Level3	滝_壁	6500	100
Level4	みなも_床_楕円	6500	100
Level5	波紋_床_楕円	6500	100
Level6	流れ雲_床_楕円	6500	100
Level7	ライティング	6500	100

- [運用方法] で、[スケジュール] を選択しているときのみ、[スケジュール] の設定が可能です。



お知らせ

- コントローラーとの接続については、“コントローラーとのシステム連動について” (58 ページ) “をご覧ください。
- 現在、本器具はスケジュール設定に対応していません。開発中のスマートフォンアプリと連携することで対応する予定です。(発売日未定)

【フェード設定】

コンテンツ、シーンを滑らかに切り替えたい時に使用します。

フェード機能の有効 / 無効を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで【フェード設定】を選択する
- 2) 〈決定〉ボタンを押す
 - 【フェード設定】画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで【フェード】を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

【オン】	フェード機能を有効にします。
【オフ】	フェード機能を無効にします。

【フェードタイプ】を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで【フェード設定】を選択する
- 2) 〈決定〉ボタンを押す
 - 【フェード設定】画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで【フェードタイプ】を選択する
 - 【フェード】が【オン】のときのみ選択できます。
- 4) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

【暗転】	コンテンツが切り替わる時、前の映像の投写を徐々に暗く、かつ音量を徐々に下げ終了させ、次の映像の投写を徐々に明るく、かつ音量を徐々に上げ開始します。
【明転】	コンテンツが切り替わる時、前の映像の投写を徐々に明るく、かつ音量を徐々に下げ終了させ、次の映像の投写を徐々に暗く、かつ音量を徐々に上げ開始します。

[投写設定] メニューについて

メニュー画面で、メニュー項目から [投写設定] を選択し、表示されたサブメニュー画面からサブメニュー項目を選択してください。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (☞ 38 ページ) をご覧ください。

- サブメニュー項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

[映像縮小]

映像を縮小・拡大します。

- 1) ▲▼ ボタンで [映像縮小] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで倍率を調整する
 - 0.05 単位で選択できます。

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	映像が拡大されます。	0.5 ~ 1.0
◀ ボタンを押す	映像が縮小されます。	

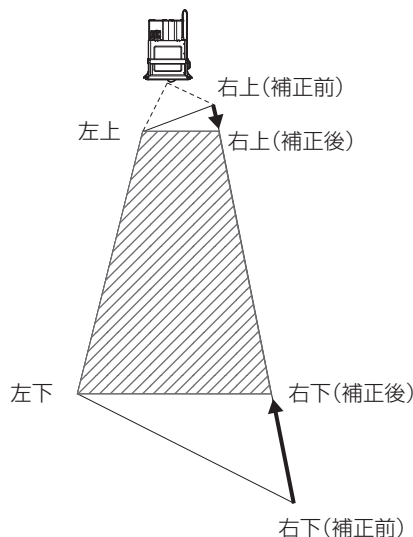
【台形補正】

本器具と投写面との角度によって、映像が台形状に歪む場合、映像を元の形状に補正します。

【コーナー補正】を設定する場合

映像の四隅の位置を個別に調整して行う補正方法です。

壁面投写時のコーナー補正の例



- 1) ▲▼ ボタンで【台形補正】の【コーナー補正】を選択する
- 2) 〈決定〉ボタンを押す
 - 【コーナー補正】画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで調整項目を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで調整する

調整項目		調整範囲
[左上]	[垂直方向]	-80 ~ 0
	[水平方向]	0 ~ +80
[右上]	[垂直方向]	-80 ~ 0
	[水平方向]	-80 ~ 0
[左下]	[垂直方向]	0 ~ +80
	[水平方向]	0 ~ +80
[右下]	[垂直方向]	0 ~ +80
	[水平方向]	-80 ~ 0

【コーナー補正】の調整内容を初期化する場合

- 1) ▲▼ ボタンで【台形補正】の【コーナー補正】を選択する
- 2) 〈決定〉ボタンを押す
 - 【コーナー補正】画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで【初期値に戻す】を選択する
- 4) 〈決定〉ボタンを押す

[水平垂直補正] を設定する場合

水平方向または垂直方向で台形状の歪みを調整する補正方法です。

- 1) ▲▼ ボタンで [台形補正] の [水平垂直補正] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [水平垂直補正] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで調整項目を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで調整します。

調整項目	調整範囲
[垂直方向]	-25° ~ +25°
[水平方向]	-14° ~ +14°

[水平垂直補正] の調整内容を初期化する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [台形補正] の [水平垂直補正] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [水平垂直補正] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [初期値に戻す] を選択する
- 4) 〈決定〉 ボタンを押す

[ホワイトバランス]

映像の色味（赤、青、緑）を調整する機能です。主に本器具を複数台で使用する際、器具間の色味（赤、青、緑）のばらつきを小さくするときに使用します。

[ピクチャーモード] を設定する場合

本器具の特性上、色味（赤、青、緑）を調整すると明るさが低下します。そのため、本器具はピクチャーモードとして、色味（赤、青、緑）を優先したノーマルモードと、明るさを優先したブライトモードの2つを搭載しています。

- 本器具を複数台で使用する際は、ノーマルモードを使用してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [ホワイトバランス] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [ホワイトバランス] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [ピクチャーモード] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

[ノーマル]	ノーマルに設定します。色味（赤、青、緑）を優先したモードです。（工場出荷時のモード）
[ブライト]	ブライトに設定します。（明るさ最大のモードです。）

[ゲイン] を設定する場合

投写された映像の明るい部分の色味（赤、青、緑）を調整する機能です。

- ホワイトバランス調整は、通常、[オフセット] を使用せず、[ゲイン] を使用してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [ホワイトバランス] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [ホワイトバランス] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで調整項目を選択する
- 4) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調整項目	操作	変化内容	調整範囲
[赤]	▶ ボタンを押す	赤が強くなります。	-100 ~ +100
	◀ ボタンを押す	赤が弱くなります。	
[青]	▶ ボタンを押す	青が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	青が弱くなります。	
[緑]	▶ ボタンを押す	緑が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	緑が弱くなります。	

[オフセット] を設定する場合

投写された映像の暗い部分の色味（赤、青、緑）を調整する機能です。

- 1) ▲▼ ボタンで [ホワイトバランス] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [ホワイトバランス] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで調整項目を選択する
- 4) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調整項目	操作	変化内容	調整範囲
[赤]	▶ ボタンを押す	赤色が強くなります。	-16 ~ +16
	◀ ボタンを押す	赤色が弱くなります。	
[青]	▶ ボタンを押す	青色が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	青色が弱くなります。	
[緑]	▶ ボタンを押す	緑色が強くなります。	
	◀ ボタンを押す	緑色が弱くなります。	

ホワイトバランス調整手順

- 1) [ピクチャーモード] を [ノーマル] に設定する
 - [ノーマル] は、工場出荷時のモードです。
 - ホワイトバランスは、[ブライト] でも調整可能です。
- 2) [コンテンツ] を [テストパターン_ホワイト] に設定する
 - ホワイトバランスは、[テストパターン_ホワイト] 以外でも調整可能です。
- 3) [ゲイン] の [赤]、[青]、[緑] を操作して、お好みのホワイトバランスに調整する
 - [ゲイン] は、-100 ~ 0 の範囲で設定してください。0 より大きくすると、映像のコントラストが低下する可能性があります。
 - ホワイトバランス調整は、通常、[オフセット] を使用せず、[ゲイン] を使用してください。[オフセット] を使用すると、コントラストが低下したり、映像の階調表現に影響を与える可能性があります。
 - 本器具を複数台使用した場合に、器具間の色味（赤、青、緑）を合わせる際は、各器具のコンテンツ、色温度、調光率を同じ設定にして、ホワイトバランスの調整をしてください。

お知らせ

- ホワイトバランスの調整でお困りの際は以下を参考にしてください。

映像の色あい	調整方法
赤味を感じる時	赤を弱めて調整してください。
青味を感じる時	青を弱めて調整してください。
緑味を感じる時	緑を弱めて調整してください。
黄色味を感じる時	赤と緑を弱めて調整してください。
空色味を感じる時	青と緑を弱めて調整してください。
赤紫味を感じる時	赤と青を弱めて調整してください。

【ホワイトバランス】を初期化する場合

選択されているモードのゲイン、オフセットの設定値が初期化されます。

- 1) ▲▼ ボタンで【ホワイトバランス】を選択する
- 2) 〈決定〉ボタンを押す
 - 【ホワイトバランス】画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで【初期値に戻す】を選択する
- 4) 〈決定〉ボタンを押す

【コントラスト (%)】

コントラストを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで【コントラスト (%)】を選択する
- 2) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	コントラストの比率が上がります。	0 ~ 100 %
◀ ボタンを押す	コントラストの比率が下がります。	

【上下反転】

投写する映像の上下を反転します。

- 1) ▲▼ ボタンで【上下反転】を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

【オン】	上下反転を有効にします。
【オフ】	上下反転を無効にします。

お知らせ

- 【上下反転】を【オン】にすると、本器具が表示する全ての画面が上下反転します。なお、表示する画面が歪むことがあります。オンスクリーンメニューを使用する場合は、【上下反転】を【オフ】にすることをお勧めします。

【左右反転】

投写する映像の左右を反転します。

- 1) ▲▼ ボタンで【左右反転】を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

【オン】	左右反転を有効にします。
【オフ】	左右反転を無効にします。

お知らせ

- 【左右反転】を【オン】にすると、本器具が表示する全ての画面が左右反転します。なお、表示する画面が歪むことがあります。オンスクリーンメニューを使用する場合は、【左右反転】を【オフ】にすることをお勧めします。
- 【左右反転】を【オン】にしたときに投写する映像が歪むときは、【台形補正】の“【コーナー補正】を設定する場合” (☞ 48 ページ) で設定している左右の値を入れ替えてください。(例：左上⇄右上、左下⇄右下など)
 なお、投写する映像の歪みを補正するための推奨値は以下の通りです。
 【左上】 - 【垂直方向】：「-44」、【左下】 - 【垂直方向】：「+44」、それ以外：「0」

[スピーカー設定] メニューについて

メニュー画面で、メニュー項目から [スピーカー設定] を選択し、表示されたサブメニュー画面からサブメニュー項目を選択してください。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (👁️ 38 ページ) をご覧ください。

- サブメニュー項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

[Bluetooth]

Bluetooth 機能を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [Bluetooth] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

[オン]	Bluetooth 機能を有効にします。
[オフ]	Bluetooth 機能を無効にします。



お知らせ

- Bluetooth 機器の電源が OFF にされるなどで本器具との接続 (ペアリング) が切れてしまった場合は、再度 Bluetooth 機器の電源を ON にしてください。その後、サブメニュー項目の [Bluetooth] の設定内容を一度 [オフ] に設定してから再度 [オン] にしてください。

[接続中のデバイス]

接続中のデバイスを確認します。

- Bluetooth 機能が [オン] のときのみ有効です。
- 1) ▲▼ ボタンで [接続中のデバイス] を選択する
 - 接続中のデバイスを確認します。未接続の場合は、何も表示されません。



2) 新たに接続する場合や接続先を変更する場合は〈決定〉ボタンを押す

- [Bluetooth 機器一覧] 画面が表示されます。
- ペ어링状態で未接続の Bluetooth 機器が表示されます。
Bluetooth 機器が表示されない場合は、接続したい Bluetooth 機器をペ어링状態にしてください。



3) ▲▼ ボタンで [Bluetooth 機器一覧] 画面に表示されている接続可能な Bluetooth 機器を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- 接続する Bluetooth 機器を切り替えることができます。

[音量]

本器具から Bluetooth で接続した Bluetooth 機器に出力する音量を調整します。

- Bluetooth 機能が [オン] のときのみ有効です。

1) ▲▼ ボタンで [音量] を選択する

2) ◀▶ ボタンで音量を調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	音が大きくなります。	0 ~ 10
◀ ボタンを押す	音が小さくなります。	

[その他設定] メニューについて

メニュー画面で、メニュー項目から [その他設定] を選択し、表示されたサブメニュー画面からサブメニュー項目を選択してください。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (P. 38 ページ) をご覧ください。

- サブメニュー項目を選択したら ▲▼◀▶ ボタンで設定してください。

[高地モード]

海拔 1500 m 以上～ 3000 m 未満の高地で使用する場合は、[オン] に設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [高地モード] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

[オン]	海拔 1500 m 以上～ 3000 m 未満で使用する場合
[オフ]	海拔 1500 m 未満で使用する場合

[時刻設定]

日付や時刻を設定します。

お知らせ

- 現在、本器具は [時刻設定] に対応していません。開発中のスマートフォンアプリと連携することで対応する予定です。(発売日未定)

[プロジェクター ID]

本器具には ID ナンバーの設定機能があり、本器具を複数台並べて使用する場合、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

- 1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター ID] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで ID ナンバーを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	ID ナンバーの数値が増えます。	1 ～ 31
◀ ボタンを押す	ID ナンバーの数値が減ります。	

[Wi-Fi 設定]

Wi-Fi の設定をします。

お知らせ

- 現在、本器具は [Wi-Fi 設定] に対応していません。開発中のスマートフォンアプリと連携することで対応する予定です。(発売日未定)

[メニュー表示位置]

メニューの表示位置を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [メニュー表示位置] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで設定内容を切り換える
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、設定内容が切り換わります。

[上]	上部に表示します。
[中]	中央部に表示します。
[下]	下部に表示します。

[プロジェクター情報]

器具情報を表示します。

- 1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター情報] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [プロジェクター情報] 画面が表示されます。

[点灯時間 (時間)]	点灯時間 (累計) を表示します。
[DMD 温度 (°C)]	画面表示時の DMD 温度を表示します。
[LED 温度 (°C)]	画面表示時の LED 温度を表示します。
[ファン1回転数 (rpm)]	画面表示時のファン 1 の回転数を表示します。
[ファン2回転数 (rpm)]	画面表示時のファン 2 の回転数を表示します。
[ファン3回転数 (rpm)]	画面表示時のファン 3 の回転数を表示します。
[ファン4回転数 (rpm)]	画面表示時のファン 4 の回転数を表示します。
[ファームウェアバージョン]	現在のファームウェアバージョンを表示します。
[SSID]	Wi-Fi の SSID を表示します。
[Wi-Fi パスワード]	Wi-Fi のパスワードを表示します。
[Wi-Fi MAC アドレス]	Wi-Fi の MAC アドレスを表示します。
[Bluetooth MAC アドレス]	Bluetooth の MAC アドレスを表示します。
[シリアルナンバー]	器具のシリアル番号を表示します。
[ライセンス情報]	—

[ライセンス情報] を表示する場合

ライセンス情報を表示します。

- 1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター情報] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [プロジェクター情報] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [ライセンス情報] を選択する
- 4) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [ライセンス情報] 画面が表示されます。

[データ管理]

スケジュールの一覧を確認する場合

スケジュールの一覧が表示されます。

お知らせ

- 現在、本器具は [スケジュール] に対応しておりません。開発中のスマートフォンアプリと連携することで対応する予定です。(発売日未定)

コンテンツの一覧を確認する場合

コンテンツの一覧が表示されます。

- 1) ▲▼ ボタンで [データ管理] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [データ管理] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [コンテンツ] を選択する
- 4) 〈決定〉 ボタンを押す
 - [コンテンツ一覧] 画面が表示されます。

[データ初期化]

各種設定値を工場出荷時の値に戻します。

- 1) ▲▼ ボタンで [データ初期化] を選択する
- 2) 〈決定〉 ボタンを押す
 - データの初期化についての確認画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで [初期化する] を選択する
- 4) 〈決定〉 ボタンを押す
 - 確認画面が表示されます。
- 5) ◀▶ ボタンで [初期化する] を選択する
- 6) 〈決定〉 ボタンを押す
 - 初期化完了後、自動で再起動します。

コントローラーとのシステム連動について

本器具は、コントローラー（信号線式ライコン、ライトマネージャー Fx、マルチマネージャー Ex）と調光線で接続することにより、調光信号（PWM 信号）によるシーンの切り替え、照明器具との連動が可能です。接続したコントローラーの調光レベルを変更することにより、本器具であらかじめ設定したシーンが切り替わります。

シーンの設定については“[システム連動設定]”（ 44 ページ）をご確認ください。

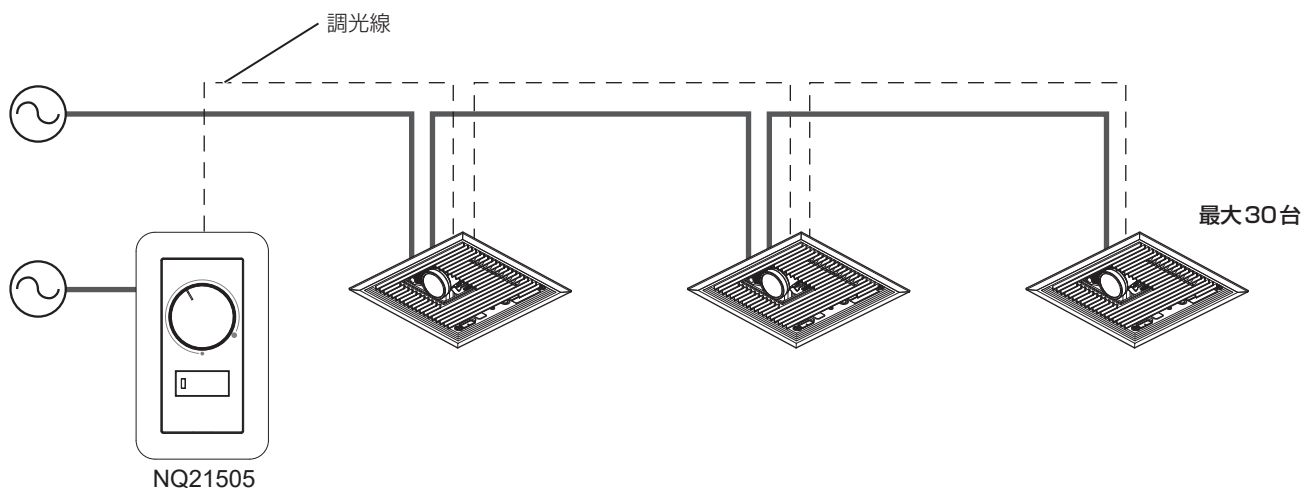
信号線式ライコン、ライトマネージャー Fx、マルチマネージャー Ex との接続については、以下をご覧ください。

信号線式ライコンの場合

■ 信号線式ライコン使用時の注意点

- 信号線式ライコンの商品図面および取扱説明書を必ずお読みいただき、記載の調光線の総配線長をお守りください。
- 調光線の同一回路内には本器具のみを接続してください。
- 同一回路内の本器具最大接続台数は、30 台になります。
- 切替スイッチを「0：Hf」に設定してください。正しく設定しない場合、一部のコンテンツを表示できないことがあります。

■ システム構成例



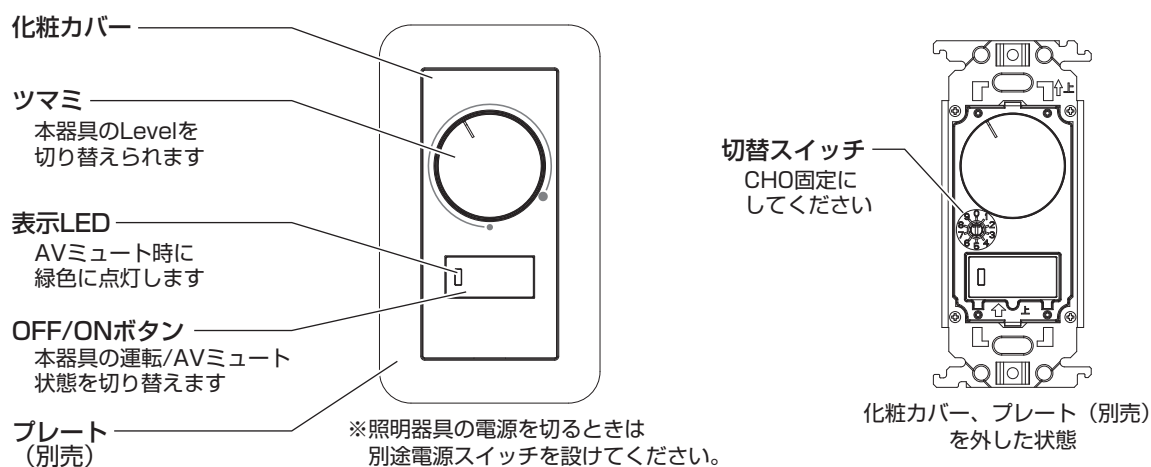
適合機種：NQ21505

切替スイッチ設定：Hf モード

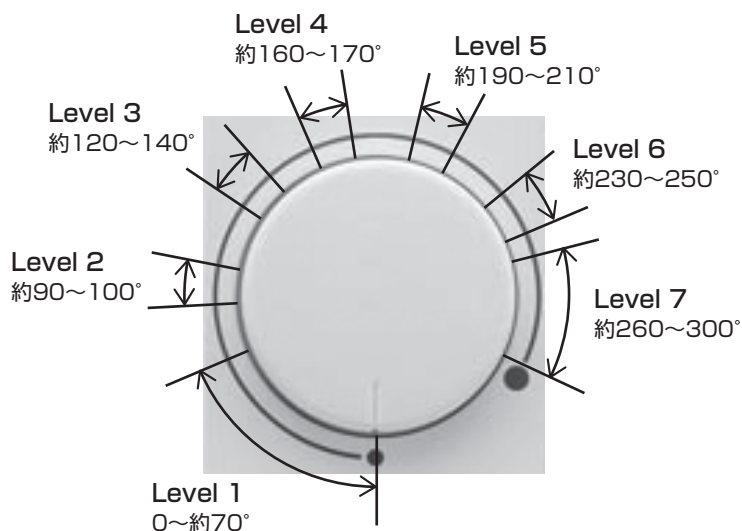
■ 信号線式ライコンの操作方法

本器具の各 Level に割り当てたシーンやスケジュールを、信号線式ライコンのつまみを回すことで、変更または再生できます。

本器具と接続した際の信号線式ライコンの各部のはたらきについては、以下のとおりです。



つまみ位置で本器具の Level は以下のようになります。



お知らせ

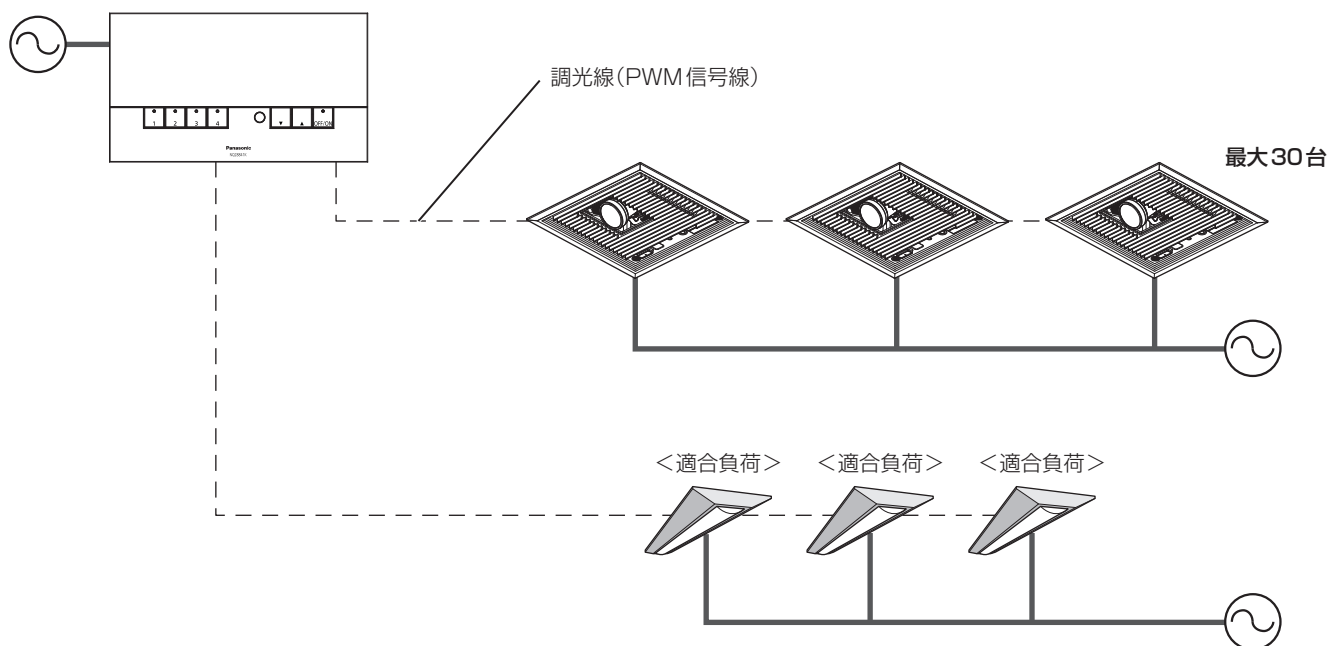
- 各 Level と Level の間の範囲は、つまみを回す方向により再生されるシーンが異なります。つまみを少しずつ回して、目的のシーンが再生されたところで止めてください。
- 化粧カバーに各 Level のおおよその位置をマーキングしておくとう便利です。
- 角度については上記の値からずれることがあります。
- つまみ操作では AV ミュート状態に切替できません。OFF/ON ボタンを使用してください。
- つまみを一度に大きく回すと、本器具の Level が切り替わらないことがあります。その場合は、Level が切り替わるまで少しずつ回してください。
- つまみの回す方向（時計周り／反時計回り）により Level が切り替わる角度が異なります。
- OFF/ON ボタンを押してから AV ミュート / 運転状態になるまで時間がかかることがあります。

ライトマネージャー Fx の場合

■ ライトマネージャー Fx 使用時の注意点

- ライトマネージャー Fx の商品図面および取扱説明書、施工説明書を必ずお読みいただき、記載の調光線の総配線長をお守りください。
- 調光線の同一回路内には本器具のみを接続してください。
- 同一回路内の本器具最大接続台数は、30 台になります。
- 負荷切替スイッチは「Hf モード」に設定してください。正しく設定しない場合、コンテンツを表示できないことがあります。
- 明るさセンサー機器と連動させて使用しないでください。意図せずコンテンツが切り替わることがあります。

■ システム構成例



適合機種：NQ28841K、NQ28861K

負荷切替スイッチ設定：Hf モード

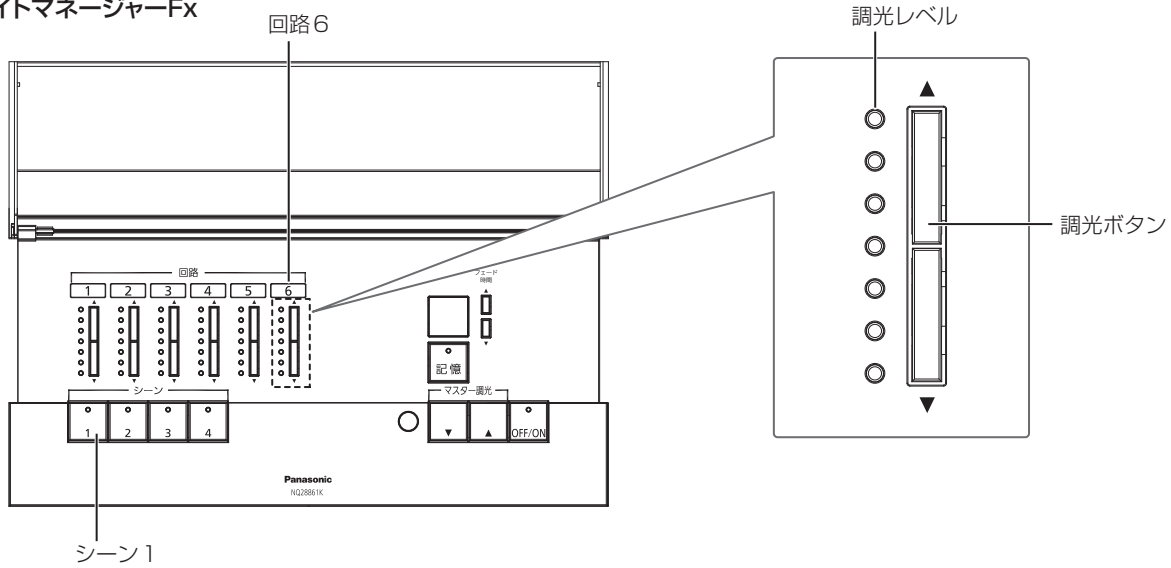
■ ライトマネージャー Fx の操作方法

本器具の各 Level に割り当てたシーンやスケジュールを、ライトマネージャー Fx の調光レベルを変えることで、変更または再生できます。本器具の設定が完了したら、ライトマネージャー Fx で再生したい調光レベルを設定し、ライトマネージャー Fx のシーンとして登録してください。

ライトマネージャー Fx のシーン登録については、ライトマネージャー Fx の取扱説明書をご覧ください。

■ 操作例

ライトマネージャー-Fx

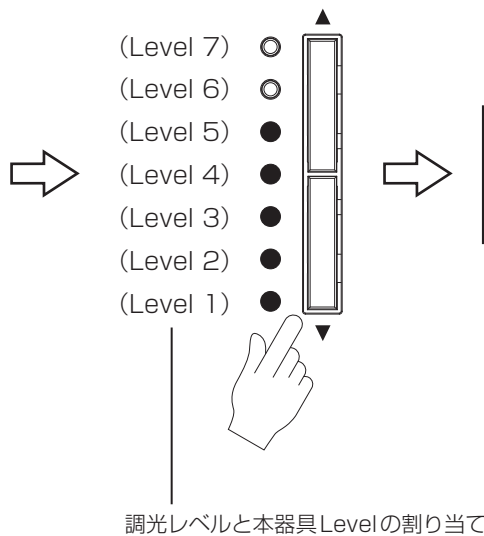


- ① 本器具の各 Level にシーンを設定する
- ② ライトマネージャー Fx の調光レベルを下から 5 番目に設定し、登録する(シーン 1、回路 6 想定)
- ③ ライトマネージャー Fx でシーン 1 を再生すると、Level5 の内容が再生される

①

システム連動設定	
【Level1】	コンテンツ：スタンダード 色温度：6500K 調光率：100%
【Level2】	コンテンツ：みなも_壁 色温度：6500K 調光率：100%
【Level3】	コンテンツ：滝_壁 色温度：6000K 調光率：100%
【Level4】	コンテンツ：みなも_床_楕円 色温度：6200K 調光率：100%
【Level5】	コンテンツ：波紋_床_楕円 色温度：6000K 調光率：100%
【Level6】	コンテンツ：流れ雲_床_楕円 色温度：6000K 調光率：100%
【Level7】	コンテンツ：ライティング 色温度：5500K 調光率：80%

②



③

<再生される内容>

コンテンツ	：波紋_床_楕円
色温度	：6000K
調光率	：100%

お知らせ

- 本器具の Level と、ライトマネージャー Fx の調光レベル(調光レベル表示灯)が一致しないことがあります。本器具の Level をライトマネージャー Fx の調光レベル (調光レベル表示灯) と一致させるには、目的のシーンが表示されるまで調光ボタンを押してください。
- なお、下記のように操作を行うと、本器具の Level とライトマネージャー Fx の調光レベル (調光レベル表示灯) が確実に一致します。
- 調光レベル上昇時：目的の調光レベル表示灯が点灯してから 15 ~ 20 回押す
- 調光レベル下降時：目的の 1 つ上の調光レベル表示灯が消灯してから 15 ~ 20 回押す

コントローラーとのシステム連動について

- ライトマネージャー Fx が初期設定の状態、各シーンを再生した場合は、本器具(初期設定の状態)は以下のシーンを再生するか、または AV ミュートになります

シーン	フェード時間	各回路の調光レベル					
		1	2	3	4	5	6
OFF	3 秒	AV ミュート	AV ミュート	AV ミュート	AV ミュート	AV ミュート	AV ミュート
1	3 秒	Level 5	Level 5	Level 5	Level 5	Level 5	Level 5
2	3 秒	AV ミュート	Level 7	Level 7	Level 7	Level 7	Level 7
3	3 秒	Level 7	AV ミュート	Level 7	Level 7	Level 7	Level 7
4	3 秒	Level 7	Level 7	AV ミュート	Level 7	Level 7	Level 7
5	10 秒	Level 5	Level 5	Level 5	Level 5	Level 5	Level 5
6	10 秒	AV ミュート	Level 7	Level 7	Level 7	Level 7	Level 7
7	10 秒	Level 7	AV ミュート	Level 7	Level 7	Level 7	Level 7
8	10 秒	Level 7	Level 7	AV ミュート	Level 7	Level 7	Level 7

- ライトマネージャー Fx のフェード機能を使用してシーン切り替えを行うと、本器具が目的の Level (シーンまたはスケジュール) を再生する前に、目的以外の Level が表示されることがあります。
- マスター調光ボタンを使用すると、本器具が再生する Level が切り替わることがあります。

マルチマネージャー Ex の場合

■ マルチマネージャー Ex 使用時の注意点

- PD/ 調光信号変換インターフェース、または WiLIA/PWM 信号変換インターフェースの商品図面および取扱説明書を必ずお読みいただき、記載の調光線の総配線長をお守りください。
- 本器具使用時には PD/ 調光信号変換インターフェース、または WiLIA/PWM 信号変換インターフェースを使用し、本器具に調光線（PWM 信号）を接続してください。
- 調光線の同一回路内には本器具のみを接続してください。
- 同一回路内の本器具最大接続台数は、30 台になります。（PD/ 調光信号変換インターフェースを使用時は、PD/ 調光信号変換インターフェースの仕様により、同一回路内の本器具最大接続台数は、4 台になります。）
- 明るさセンサー機器と連動させて使用しないでください。意図せずコンテンツが切り替わることがあります。

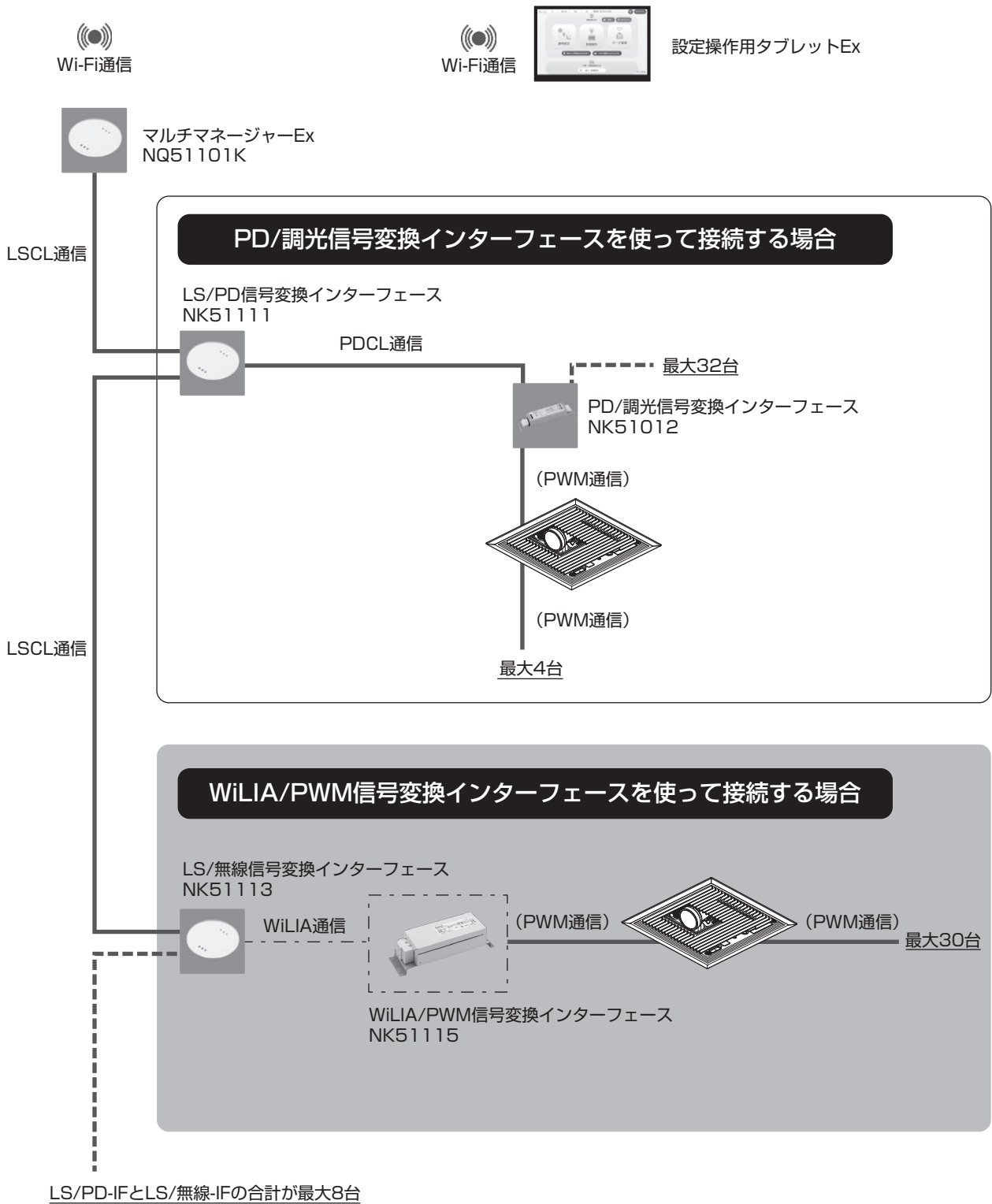
【PD/ 調光信号変換インターフェースを使って接続する場合】

- 設定操作用タブレット Ex では、有線器具として表示されます。
- PD/ 調光信号変換インターフェースの結線確認時に本器具のインジケータが青色と紫色に点滅します。
- 初期設定の機器配置の点滅操作では本器具のインジケータが青色と紫色に約 5 秒間点滅します。点滅の周期は一定でないことがあります。

【WiLIA/PWM 信号変換インターフェースを使って接続する場合】

- 設定操作用タブレット Ex では、無線器具として表示されます。
- WiLIA/PWM 信号変換インターフェースの電波到達確認時に本器具のインジケータが青色と紫色に点滅します。WiLIA/PWM 信号変換インターフェースの初期設定が完了している場合はインジケータは点滅しません。
- 初期設定の WiLIA/PWM 信号変換インターフェース登録の点滅操作では本器具のインジケータが青色と紫色に約 10 秒間点滅します。点滅の周期は一定でないことがあります。

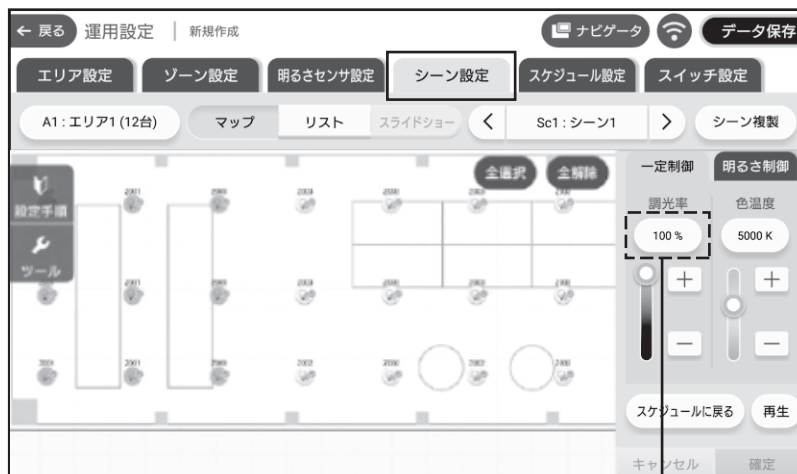
■ システム構成例



■ マルチマネージャー Ex の操作方法

本器具の各 Level に割り当てたシーンやスケジュールを、マルチマネージャー Ex の調光率を変えることで、変更または再生できます。

本器具の各 Level 毎のマルチマネージャー Ex (品番: NK51012・NK51115) の調光率設定は以下になります。調光率の設定方法については、設定作用タブレット Ex の取扱説明書をご覧ください。



本器具の再生シーン	NK51012接続時の調光率	NK51115接続時の調光率
Level7	100%	100%
Level6	81%	81%
Level5	56%	56%
Level4	33%	33%
Level3	17%	19%
Level2	9%	11%
Level1	5%	5%
AVミュート	0%	0%

上記の値を設定してください。
この値以外を使用した場合、目的のLevelが再生されないことがあります。

お知らせ

- 1台のNK51012またはNK51115に本器具を複数台接続している場合でも、マルチマネージャー Ex 上では1台の器具として表示されます。1台のNK51012またはNK51115に接続された複数の本器具を、別々に操作することはできません。
- マルチマネージャー Ex のフェード機能を使用してシーン切り替えを行うと、本器具が目的のLevel (シーンまたはスケジュール) を再生する前に、目的外のLevelが表示されることがあります。

点検とお手入れ

お手入れ



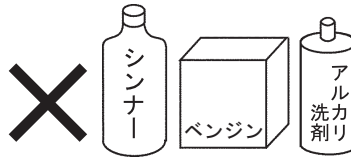
注意

必ず電源を切ってください。
感電・やけどの原因となります。

外装カバー

汚れやほこりはやわらかい乾いた布でふき取ってください。

- 汚れがひどいときは水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽くふき取ってください。
お手入れの際は、シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤を使用しないでください。
変色、変質、強度低下による破損の原因となります。



投写レンズ

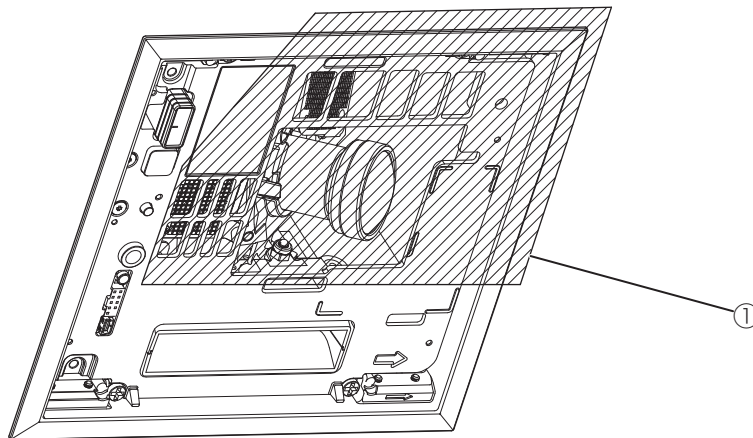
レンズの前面に付着したごみやほこりは、清潔なやわらかい乾いた布でやさしくふき取ってください。

- 毛羽立った布、油分、水分を含んだ布、ほこりの付いた布、固い布でふかないでください。
- レンズは傷つきやすい素材のため、強くふいたり、堅いものを当てたりしないでください。

内部清掃について

外装カバーを外し、吸気口まわり (①の部分) を掃除機で吸引してください。

- 長時間使用した場合など、環境や使用条件によって、ほこりやごみが吸気口まわりにたまることがあります。
ほこりがたまることで、故障や性能低下の原因となります。
- 吹き飛ばすタイプの掃除機を使用しないでください。ほこりやごみを器具の奥に入れてしまう恐れがあります。



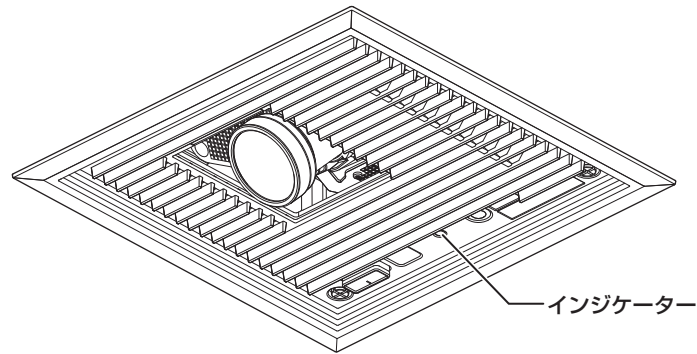
点検

3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。

点検せずに長期間使い続けると、まれに火災・感電・落下などに至る場合があります。

インジケーターについて

本器具の状態を点灯や点滅でお知らせします。インジケーターの状態を確認し、操作、処置を行ってください。



点灯状況	本器具の状態	処置	ページ
消灯	電力が供給されていません。(屋内配線の電源が切れている状態です。)	—	—
赤色が点灯	電源が切れています。(スタンバイ状態です。) 電源 <ON/OFF> ボタンを押すと、投写を開始します。	—	—
青色が点灯	電源 ON (投写) 状態または AV ミュート状態です。	—	—
青色と紫色が点滅 (約 1 秒ごと)	コントローラーからの信号を受信中の状態です。	—	—
青色が点滅 (約 0.5 秒ごと)	本器具が起動中の状態です。	—	—
赤色と紫色が点滅 (約 0.5 秒ごと)	温度異常が発生しています。	清掃を実施してください。	66
紫色が点滅 (約 0.5 秒ごと)	ファンの速度異常が発生しています。	清掃を実施してください。	66
赤色が点滅 (約 0.5 秒ごと)	光源が切れているか、光源の異常が発生しています。	電源をいったん切り、約 5 秒以上経ってから再び電源を入れてください。	—
紫色が点灯	本器具の内部処理に異常が発生しています。	電源をいったん切り、約 5 秒以上経ってから再び電源を入れてください。	—

お知らせ

- 上記の処置でなお異常のある場合には、ただちに電源を切り、ご購入の販売店（工事店）、お客様ご相談窓口（保証書記載）にご相談ください。
- スタンバイ状態（インジケーターが赤色に点灯）でも電力を消費しています。消費電力については、“消費電力”（☞ 59 ページ）をご覧ください。

故障かな？

現象	考えられる原因	処置	ページ
複数台で使用する際、器具間の色味(赤、青、緑)が、ばらついている	LEDの光がばらついている。 ※ LEDの光は同一品番でも器具ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。	ホワイトバランスを調整する	50
複数台で使用する際、器具間の明るさが、ばらついている	LEDの光がばらついている。 ※ LEDの光は同一品番でも器具ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。	調光率を調整する	37
投写された映像の画素が欠けている	DLPチップの画素が欠けている、もしくは常時点灯する画素が発生している。	故障ではありませんので、あらかじめご了承ください	—
映像が投写されない・切り替わらない	電源がOFFになっている	電源をONにする	—
	器具がスタンバイ状態になっている	器具を投写状態にする	14
	AVミュート状態となっている	AVミュートをOFFにする	34
	リモコンの乾電池が消耗している	リモコンの乾電池を交換する	31
	信号が届く範囲にリモコンがない	器具の真下など必ずリモコンが動作する場所から操作する	32
	リモコンのリモコン発信部が汚れている	リモコン発信部の汚れをふき取る	33
	コンテンツが「ブラック」となっている	コンテンツを変える	36
	調光率の設定が0%に設定されている	調光率の設定を変更する	37
	動作モードが、設定した動作モードと異なる	動作モードを切り替える	34
	システム連動設定情報の設定に誤りがある	システム連動設定を変更する	44
システム連動設定情報のデータが破損している	オンスクリーンメニューでシステム連動設定情報の再設定を実施する	44	
リモコンで操作できない	リモコンの乾電池が正しく入っていない	リモコンの乾電池を正しく入れる	31
	リモコンの乾電池が消耗している	リモコンの乾電池を交換する	31
	リモコンと器具のIDが合っていない	器具のIDを確認し、リモコンのIDを変更して操作する	35
スタンバイ状態にならない	動作モードがシステム連動モードやスケジュールモードになっている	動作モードをマニュアルモードに切り替える	34
Bluetooth接続した外部のスピーカーから音が鳴らない	音量設定が0に設定されている	音量の設定を変更する	54
	他のスピーカーと接続している	Bluetooth接続する外部のスピーカーを変更する	53
	スピーカーの電源がONになっていない	スピーカーの電源をONにする	—
	接続できていない	オンスクリーンメニューで接続設定をする	53
Bluetooth接続した外部のスピーカーから音が途切れる	電波環境が悪い	使用していない他のBluetooth機器の電源を切る	—
システム連動モードで、Level7の内容が再生され続け、その他のLevelに切り替わらない	コントローラーの電源がOFFになっている	コントローラーの電源をONにする	—
上記の処置を行っても現象が続く場合	器具	電源をいったん切り、約5秒以上経ってから再び電源を入れる	

- 上記の処置でなお異常のある場合には、ただちに電源を切り、ご購入の販売店（工事店）、お客様ご相談窓口（保証書記載）にご相談ください。

仕様

本器具の仕様は次のとおりです。

品番		NTN91011	NTN91012
タイプ		中角タイプ	広角タイプ
使用電源		AC100 ~ 240 V 50 Hz/60 Hz	
消費電力	稼働時	47.5 W	
	スタンバイ時	3 W	
入力電流	稼働時	100 V: 0.53 A / 200 V: 0.29 A / 240 V: 0.25 A	
突入電流		10 A	
DLP チップ	サイズ	0.3 型 (アスペクト比 16 : 9)	
	表示方式	DLP チップ 1 枚 DLP 方式	
	画素数	921600 画素 (1280 × 720 ドット)	
レンズ	スローレシオ	1.2 : 1	0.86 : 1
	フォーカス	0.7 ~ 5.0 m	0.85 ~ 3.0 m
光源		LED	
光出力		486 lm (ANSI)	
コントラスト比		200 : 1 以上	
画面アスペクト比		16 : 9	
色温度		2700 K ~ 6500 K	
投写方式		フロント (上下左右反転可能)	
質量		2.8 kg (別売の埋込枠 : NTN98011W または NTN98011B の質量を含む)	
首振り角度		約 0° ~ 43°	
騒音値		0 °C ~ 25 °C : 36 dB 25 °C ~ 35 °C : 39 dB	
使用環境条件	温度	標高 1500 m 未満 : 5 °C ~ 35 °C 標高 1500 m ~ 3000 m 未満 : 5 °C ~ 30 °C	
リモコン	使用電源	DC 3 V (単 4 形マンガンまたはアルカリ乾電池 2 本)	
	質量	73 g (乾電池含む)	
	外形寸法	横幅 : 42 mm 高さ : 134.3 mm 奥行 : 22.3 mm	

■ 無線 LAN/Bluetooth

品番		NTN91011	NTN91012
無線 LAN	準拠規格	IEEE802.11a/n/ac 5GHz 帯	
	転送速度	433Mbps	
	使用無線チャンネル	36/40/44/48 チャンネル (W52)	
	セキュリティ	WPA2-PSK	
Bluetooth	通信方式	Bluetooth 標準規格 Ver4.2 + HS. FH-SS	
	使用周波数領域	2.4GHz 帯	
	送信電力	Class 2 (2.5mW)	
	変調方式	GFSK (Gaussian Frequency Shift Keying)	
	対応 Bluetooth プロファイル	A2DP, AVRCP	
	対応コーデック	SBC	

お知らせ

- 本器具を使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
(This projector is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)

■ 商標などについて

- DLP、DLP ロゴはテキサス・インスツルメンツの登録商標です。
 - Bluetooth® は、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。
 - 本製品に含まれているソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、ならびに輸出法令に違反した輸出行為には禁じられています。
 - 本製品は、AVC Patent Portfolio License、VC-1 Patent Portfolio License および MPEG-4 Visual Patent Portfolio License に基づきライセンスされており、以下に記載する行為に関わるお客様の個人的又は非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。
 - 画像情報を AVC 規格、VC-1 規格および MPEG-4 Visual 規格に準拠して（以下、AVC/VC-1/MPEG-4 ビデオ）記録すること
 - 個人的活動に従事する消費者によって記録された AVC/VC-1/MPEG-4 ビデオ、または、ライセンスを受けた提供者から入手した AVC/VC-1/MPEG-4 ビデオを再生すること
- 詳細については MPEG LA, LLC ホームページ (<http://www.mpegla.com>) をご参照ください。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記なき場合でも、これを十分尊重いたします。

また、本文中では® マークは明記していません。

当製品に関するソフトウェア情報

本製品は、以下の種類のソフトウェアから構成されています。

- (1) パナソニック株式会社（パナソニック）が独自に開発したソフトウェア
- (2) 第三者が保有しており、パナソニックにライセンスされたソフトウェア
- (3) GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.0 (GPL V2.0) に基づきライセンスされたソフトウェア
- (4) GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.1 (LGPL V2.1) に基づきライセンスされたソフトウェア
- (5) GPL V2.0、LGPL V2.1 以外の条件に基づきライセンスされたオープンソースソフトウェア

上記 (3) ~ (5) に分類されるソフトウェアは、これら単体で有用であることを期待して頒布されますが、「商品性」または「特定の目的についての適合性」についての黙示の保証をしないことを含め、一切の保証はなされません。

- ライセンス条件は、メニューの [その他設定] → [プロジェクター情報] → [ライセンス情報] からご参照ください。パナソニックは、本製品の発売から少なくとも 3 年間、以下の問い合わせ窓口にご連絡いただいた方に対し、実費にて、GPL V2.0、LGPL V2.1、またはソースコードの開示義務を課すその他の条件に基づきライセンスされたソフトウェアに対応する完全かつ機械読取り可能なソースコードを、それぞれの著作権者の情報と併せて提供します。

問い合わせ窓口 (E メール) : ltg.gpl@ml.jp.panasonic.com

保証とアフターサービス

よくお読みください

故障・修理・使い方・メンテナンス

などのご相談は、まず、

お買い上げの販売店（工事店）

へ、お申し付けください。

お買い上げの販売店（工事店）がご不明の場合は、当社（下記、お客様ご相談センター）までご連絡ください。

* 内容により、お近くの窓口をご紹介させていただく場合がございますのでご了承ください。

補修用性能部品の保有期間

6年

当社では、プロジェクターの補修用性能部品を、製造打ち切り後、6年間保有しています。

* 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理のご依頼について

この取扱説明書を再度ご確認ください。お買い上げの販売店（工事店）までご連絡ください。

■ 保証期間中の修理は...

保証書の記載内容に従って、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は...

修理により、機能、性能の回復が可能な場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ ご連絡いただきたい内容

品名	DLP プロジェクター
品番	NTN91011/NTN91012
製造番号	
お買い上げ日	
故障の状況	

パナソニック 照明と住まいの設備・建材お客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル



0120-878-709

※携帯電話・PHSからご利用になれます。

365日
受付9時～20時

■ FAXフリーダイヤル 0120-872-460

URL <https://www2.panasonic.biz/ls/lighting/>

* 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差し上げるのに時間をいただく場合がございます。

* お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようおかけください。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用している場合があります。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

下記は、本製品の SSID と初期パスワードになります。
SSID と初期パスワードは無線 LAN 接続時に必要な番号
で、器具ごとに異なります。紛失しないよう本取扱説明書
とともに大切に保管してください。

※このパスワードは、初期パスワードのため、パスワード
を変更された場合は、対応しなくなりますので、ご注意
ください。